

auカブコム証券株式会社


2020年3月期

決算説明資料

2020年4月24日



au カブコム証券

A member of  MUFG

MISSION

すべてのひとに資産形成を。

資産形成が求められる時代に、
機関(プロ)と個人の垣根を越えて、
すべてのひとが、もっと自由で豊かな投資活動が出来る様にします。

Management Vision

ONE AND ONLY

先進性、多様性ファースト。

常にデジタル・トランスフォーメーションし続ける先進性と
変化が激しい時代に対応する多様性を発揮し、
お客さまの投資成績向上を徹底追求します。

3社の強みで、生み出す。

総合金融機関としてのMUFGの信頼、
au・KDDIの持つスマホ経済圏、
そしてIT証券黎明期から脈々と培われたカブコムのデジタルテクノロジー。
タッグを組んだ3社の強みで「他に無い」サービスを生み出します。

1. 市場環境等
2. 19年度業績
3. 19Q4業績
4. 経営指標
5. 当期の取り組み

- 株式個人売買代金/日(ETF、REIT含む)は、前Q比+34.8%、FY18比▲6.6%
- 直近4月は、コロナ禍による現物株の売買代金低下が目立つ状況。

【四半期】17-19年度個人売買代金/日(億円)

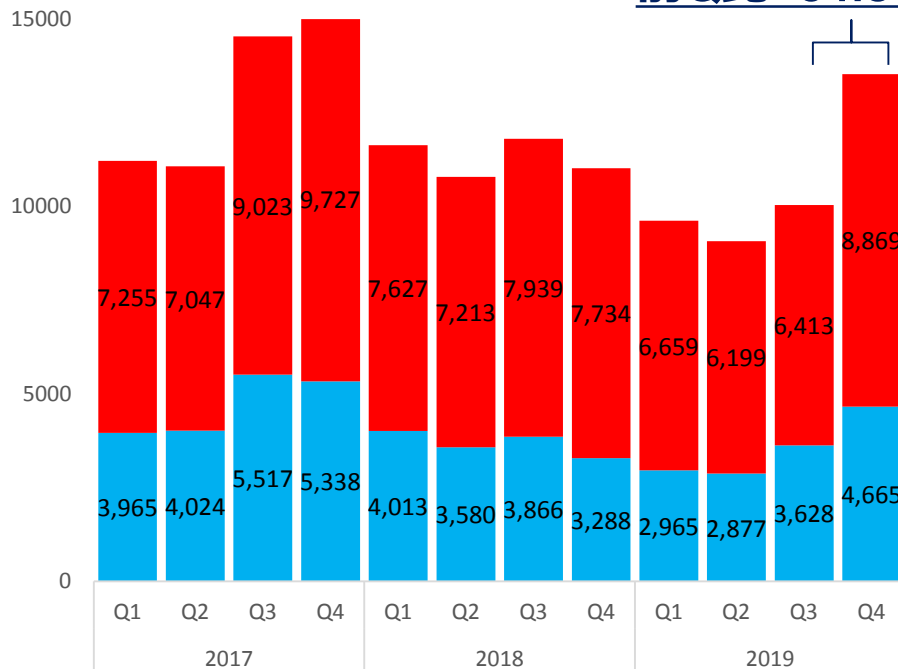
※ETF,REIT含む

■現物 ■信用

FY18比▲6.6%

前Q比+34.8%

15,000



【週次】19年度株式等個人売買代金/日(億円)

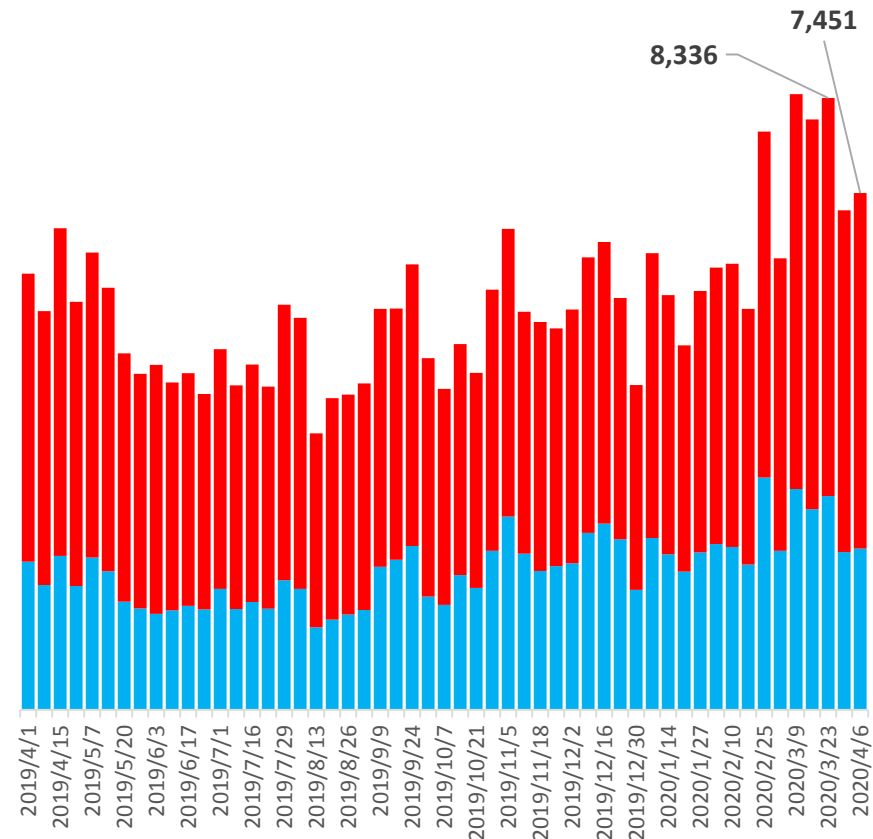
※ETF,REIT除く

■現物 ■信用

10,000

5,000

0

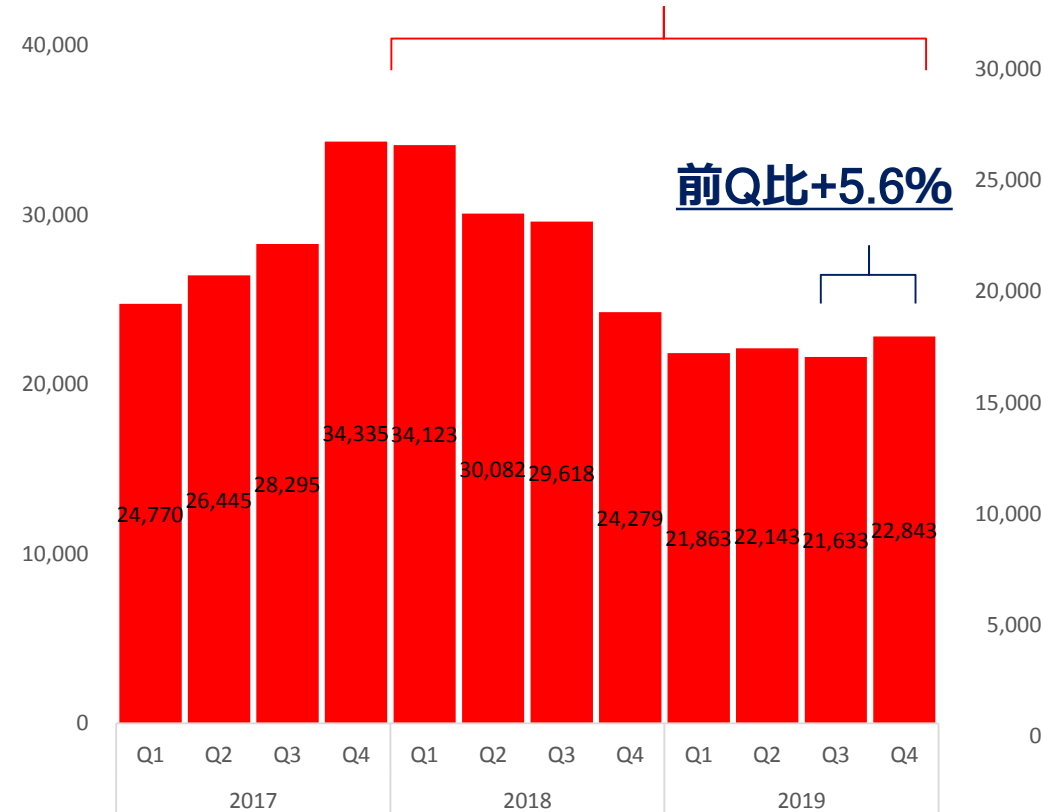


- 信用買残/週次平残は、前Q比+5.6%、FY18比▲25.4%
- 直近ではコロナ有事下の相場で、お客様損切りもあるが、評価額としても平均残高額の急落が目立った。

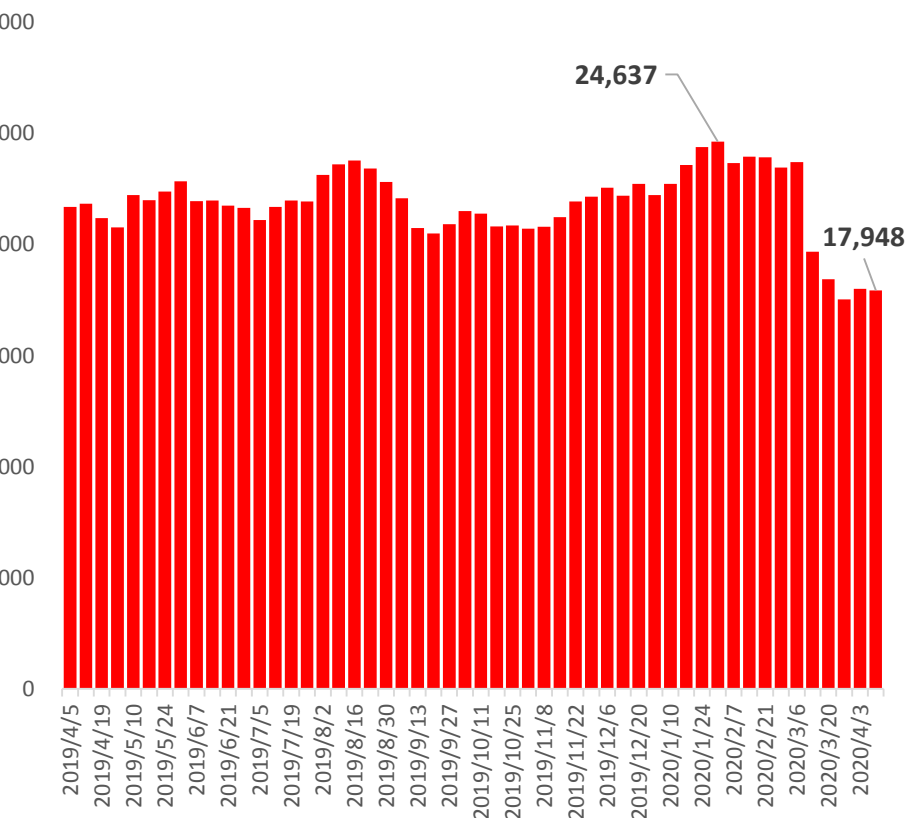
【四半期】信用買残/週次平残(億円)

FY18比▲25.4%

前Q比+5.6%



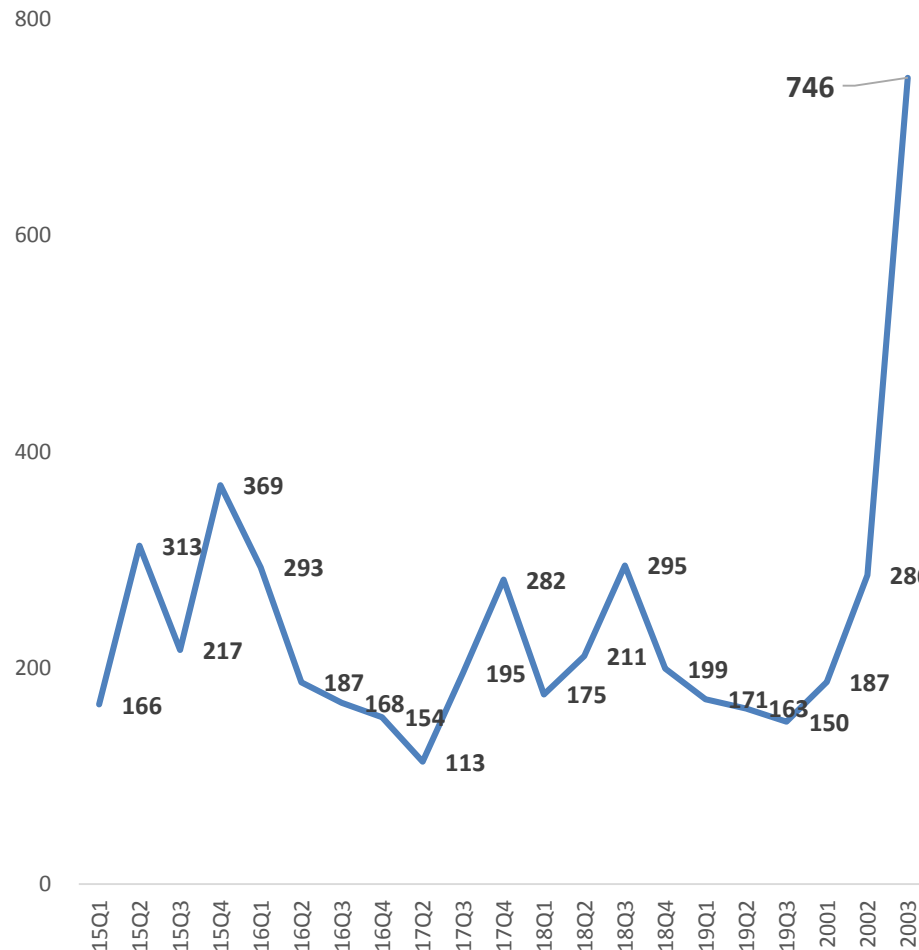
【週次】信用買残/週次平残(億円)



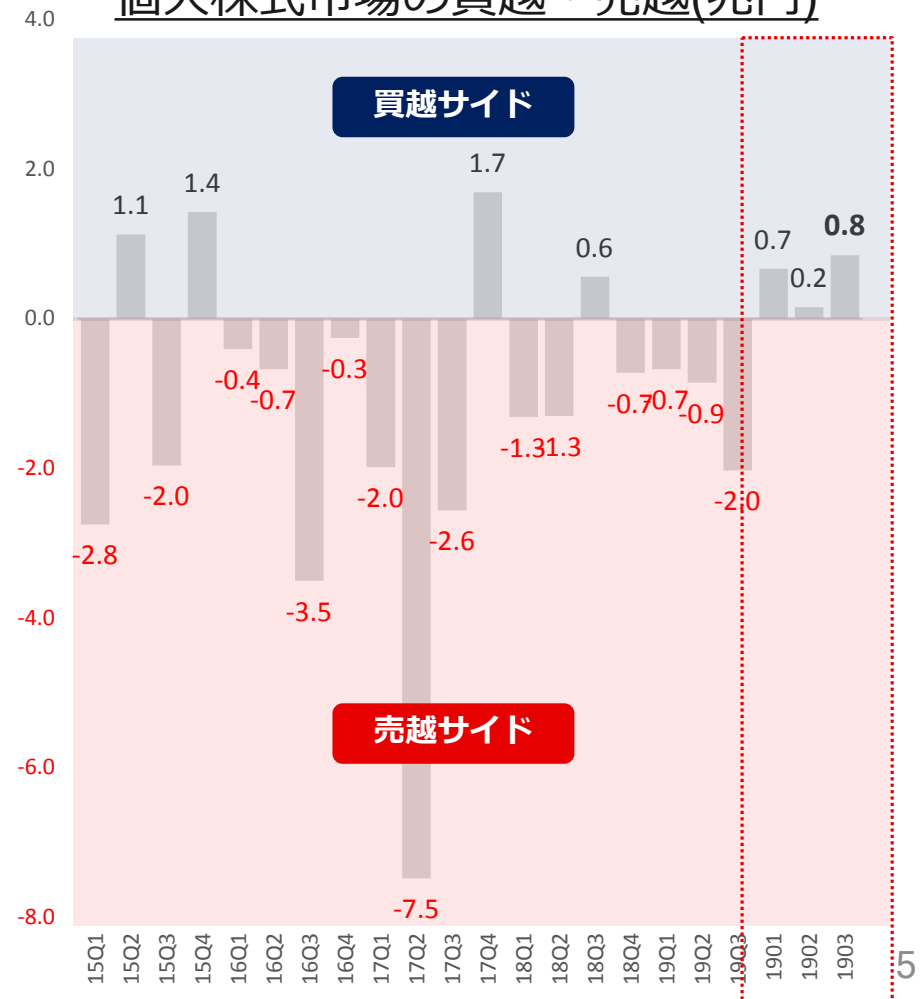
※株式等個人委託売買代金/日はETF、REIT含む

- 20/01~3にかけて高安で3倍以上までと、値動きが急に激化した。
- また、個人株式市場は3ヶ月連続で買越となり、約0.8兆円まで買越額が伸びた。

株式高安幅(円)

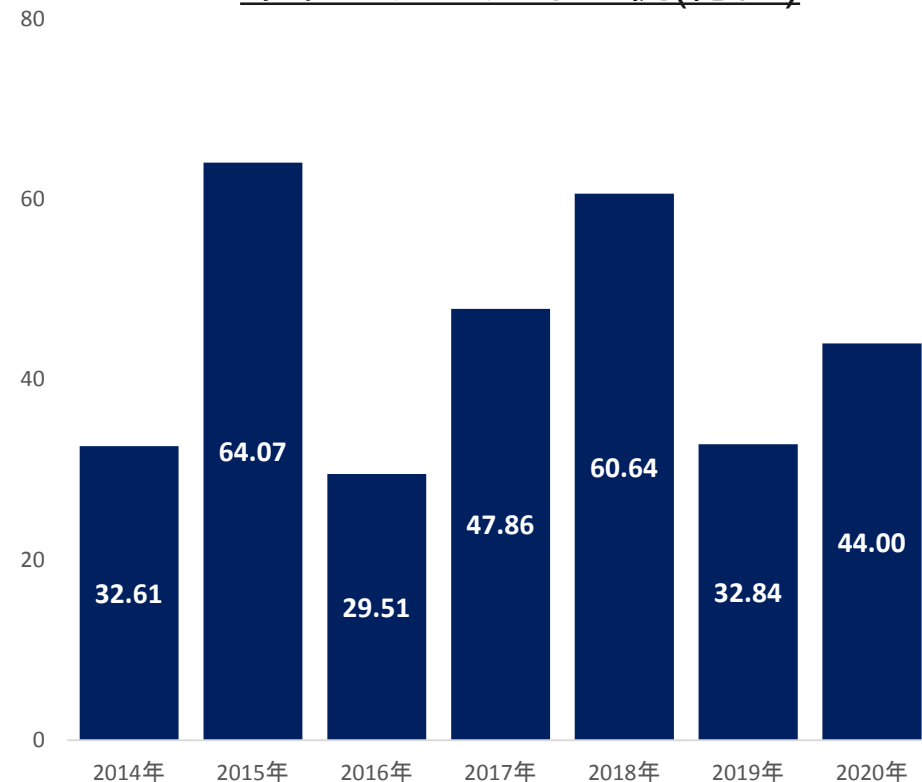


個人株式市場の買越・売越(兆円)

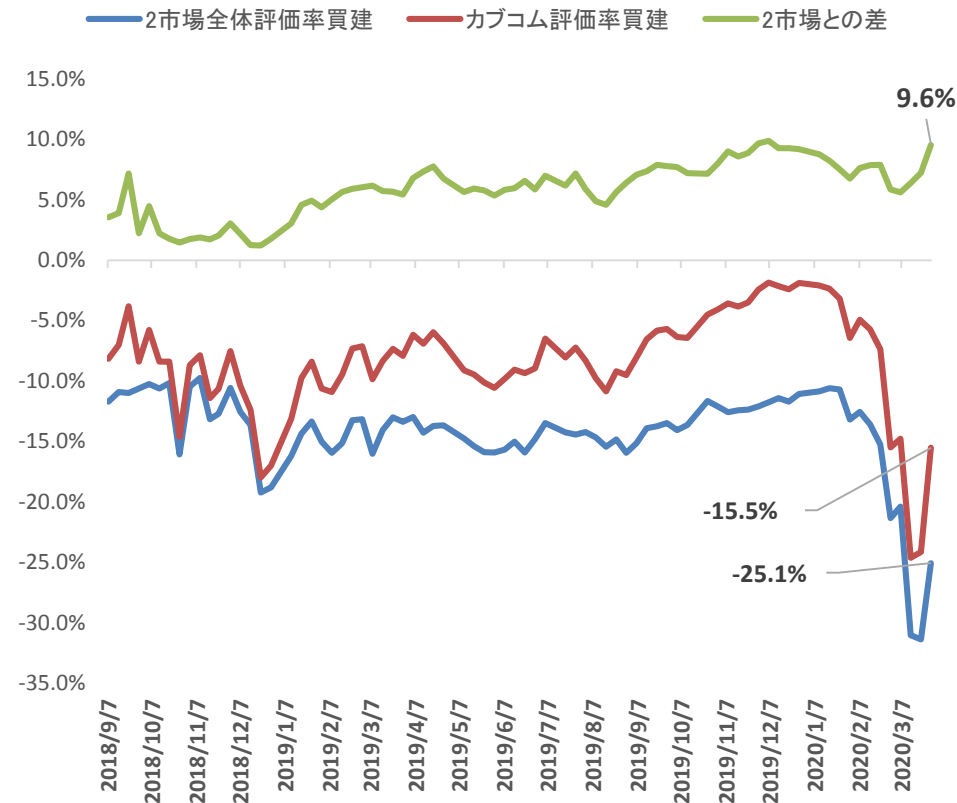


- お客様の株式等売却益にかかる20年3月時点キャピタルゲイン税は44億円。
- 当社の信用買残評価損益率は、引き続き市場を上回り推移。20年3月末では当社△15.5%と市場比で+9.6%を達成。

14-19各年度 3月時点の キャピタルゲイン税(億円)



信用買残の評価損益率(%)*



*取引所公表数値等より当社作成。データは一般信用を含んだデータです。

1. 市場環境等
- 2. 19年度業績**
3. 19Q4業績
4. 経営指標
5. 当期の取り組み

株式等 個人市場

- ・ 信用買残/週次平残は18年度比▲0.7兆円、▲25.4%
- ・ 個人市場（買いと売りの差額）は1.8兆円の売越

19年度業績

- ・ 株式、金融収支低迷、純営業収益は18年度比▲14.4%
- ・ マーケ、システム、人件費膨らみ販管費が18年度比+6.7%
- ・ 収益低迷および経費増加により利益逼迫、減収減益

営業施策 /au協業

- ・ 04月 auアセットマネジメント社協業、
「カブコムのiDeCo」提供開始
- ・ 09月 auじぶん銀行協業「金利120倍」CPN開催
- ・ 11月 「ベストプライス宣言」→FXのスプレッド縮小
- ・ 12月 「auカブコム証券」爆誕
KDDI×auカブコム証券「auの資産運用」を開始
- ・ 12月 「ベストプライス宣言」→信用手数料撤廃
- ・ 02月 auじぶん銀行協業、経由の口座開設など所定条件で
最大5,000WALLETポイントのプレゼントCPN
- ・ 02月 新規口座開設→取引で最大50万円プレゼントCPN

- 株式市場低迷によりトップライン減少。18年度比▲18.5億円、▲8.7%
- 販管費は、広告費、システム費、人件費増加により18年度比+8.3億円、+6.7%
- 収益減少及び経費増加が利益逼迫、当期純利益は18年度比▲27.6億円、▲64.4%

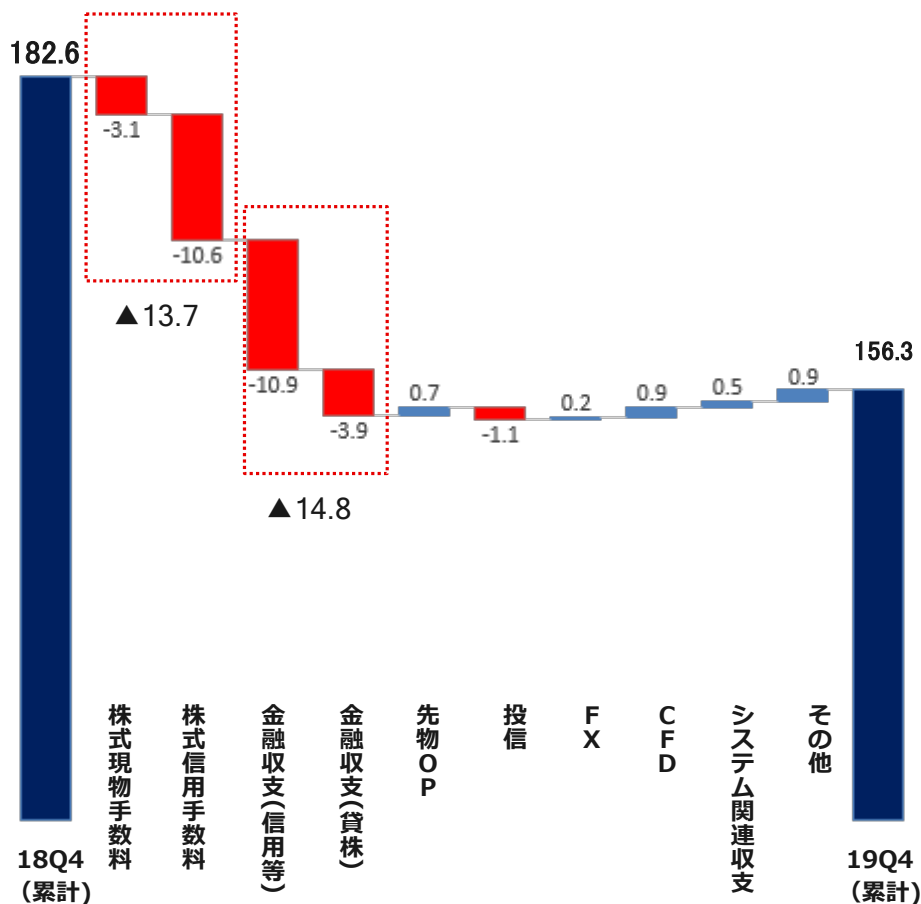
(億円)	18年度	19年度	増減額	増減率
営業収益	212.0	193.4	▲18.5	▲8.7%
純営業収益	182.6	156.3	▲26.3	▲14.4%
販管費	123.8	132.1	+8.3	+6.7%
営業利益	58.8	24.1	▲34.6	▲59.0%
経常利益	59.3	24.6	▲34.7	▲58.5%
当期純利益	42.9	15.2	▲27.6	▲64.4%

市場(億円)

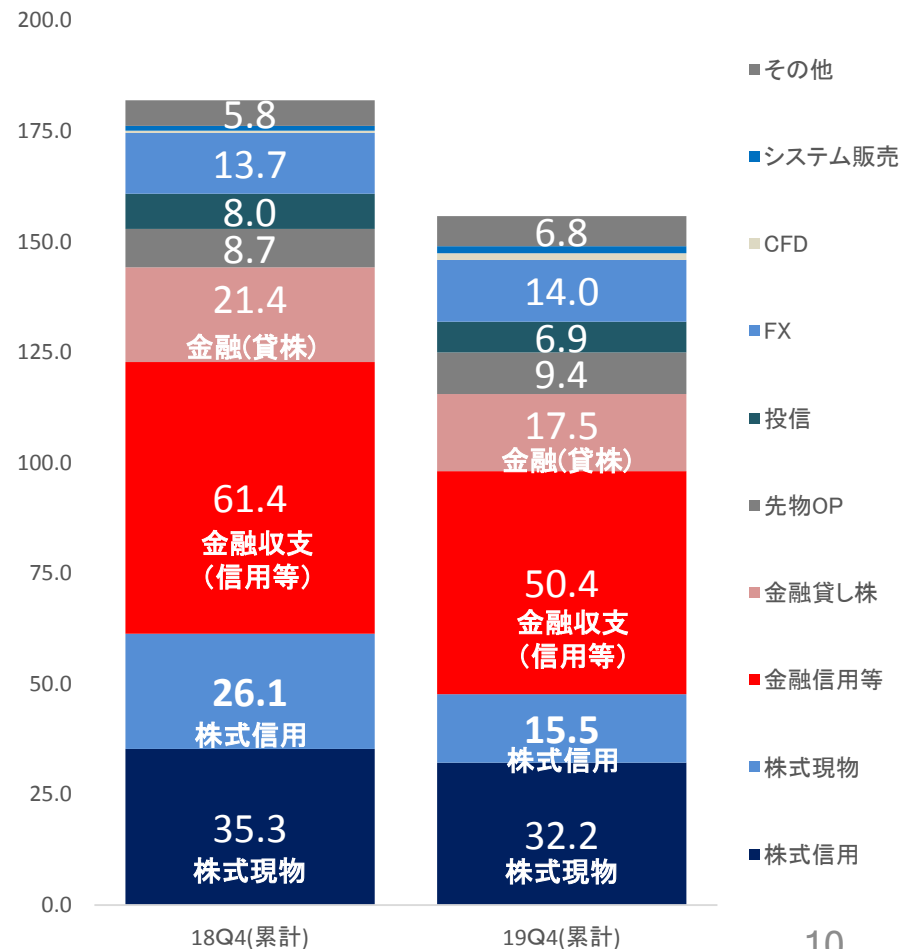
株式等個人委託売買代金/日 18年度比(前年同期平均比較)	11,321	10,521	▲800	▲7.1%
信用買残高/週次平残 18年度比(前年同期平均比較)	29,539	22,025	▲7,514	▲25.4%

- 市況低迷により、純営業収益は18年度比▲26.3億円
- 主要因は、株式現物・信用手数料▲13.7億円、金融収支▲14.8億円

純営業収益増減内訳(億円)



純営業収益内訳構成(億円)

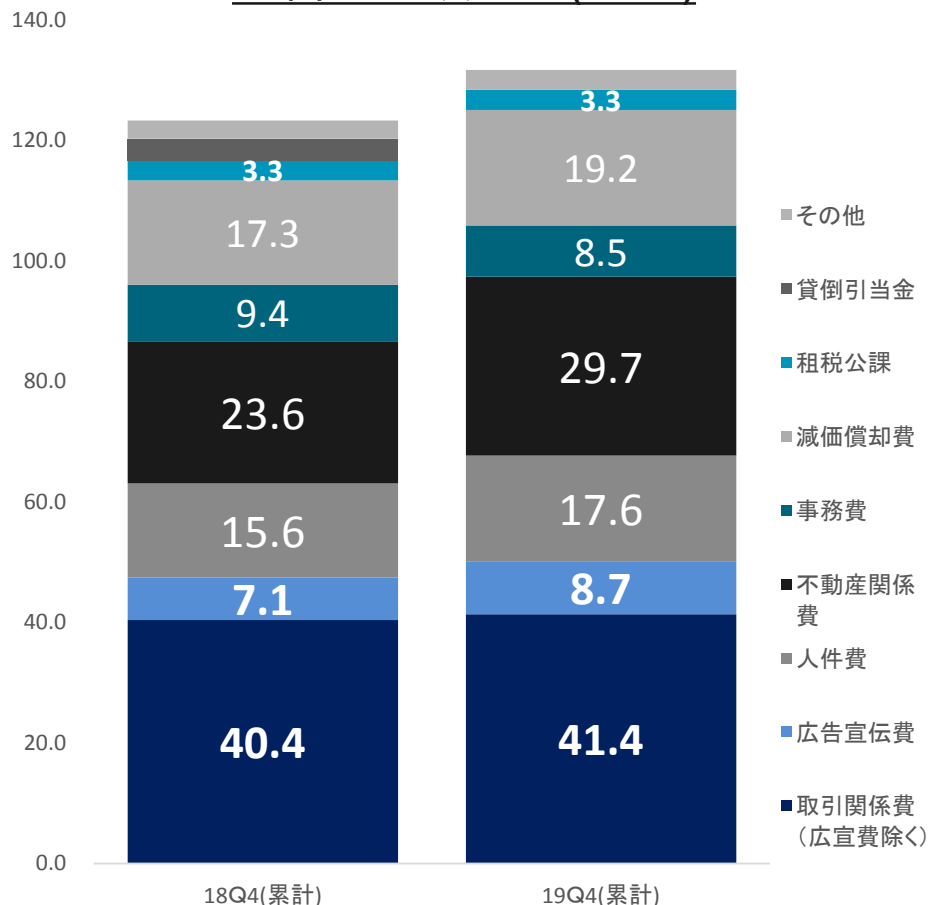
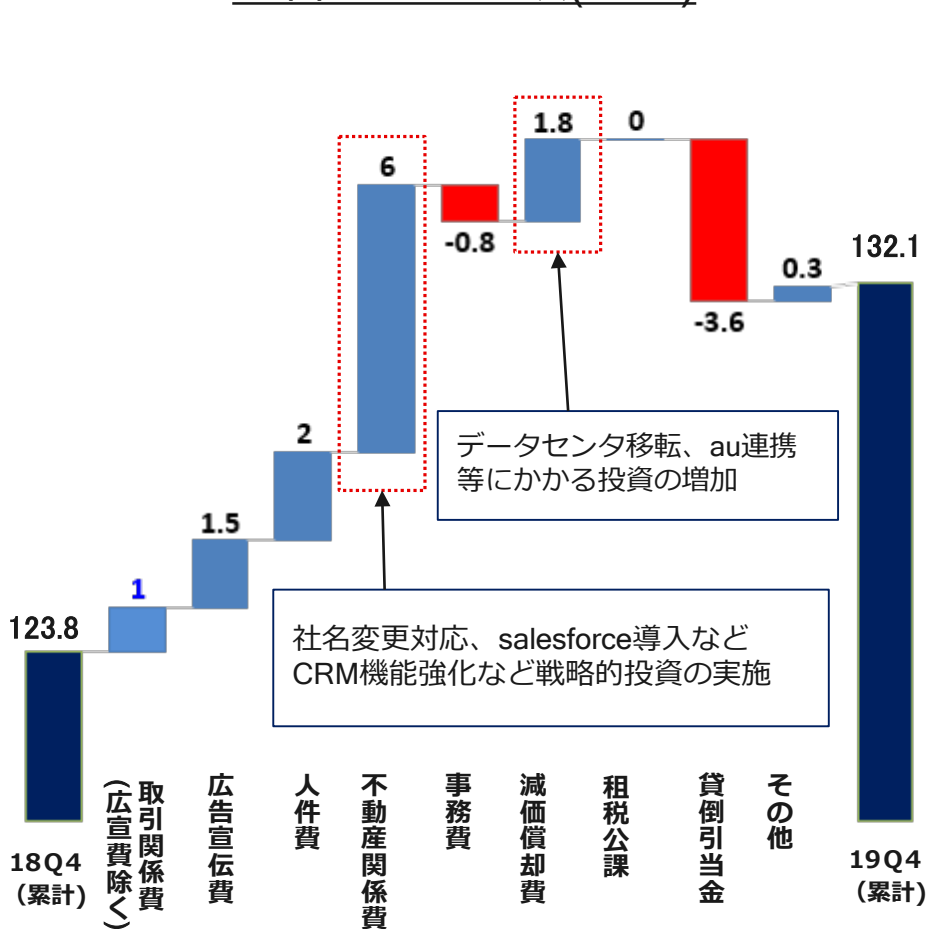


※ 第二小数点以下切捨てのため、増減は完全に一致はしない

- 戦略的なシステム投資および社名変更やau連携強化に伴うシステム関連費用の増加により販管費+8.3億円。不動産関係費+6.0億円、減価償却費+1.8億円

販管費増減内訳(億円)

販管費内訳構成(億円)



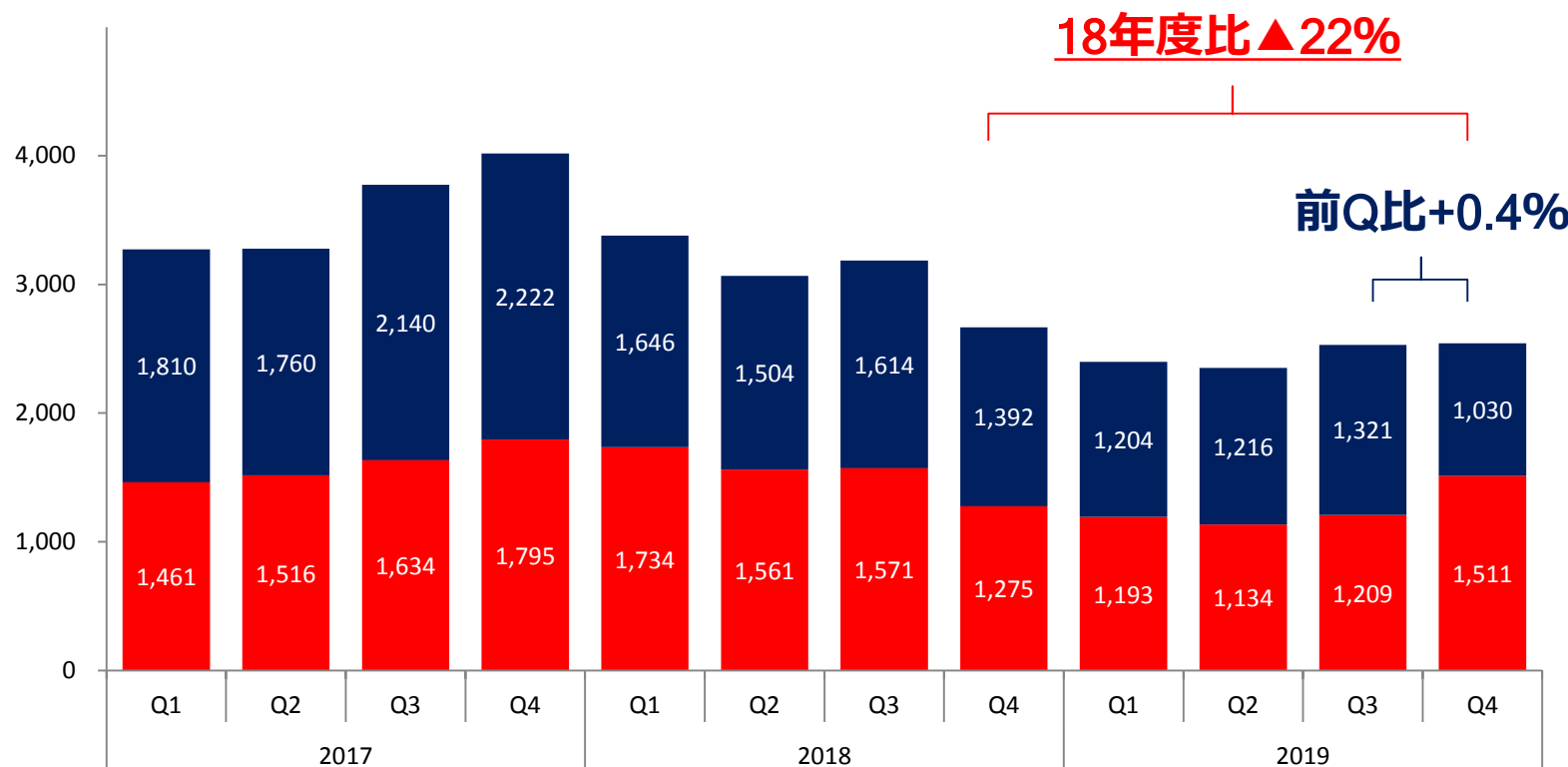
※ 第二小数点以下切捨のため、増減は完全に一致はしない

※ 不動産関係費 = 不動産費(支払家賃) + 器具備品費(システム経費)。減価償却費は、システム投資によるものが主

- Q3 ~ Q4で市況取引活発化により株式取引増加。信用取引無料化による影響もあり株式関連の純営業収益はQ4は前Q比+0.4%。但し、年度対比では▲22%の減少

(株式関連) 純営業収益推移(百万円)

- 株式委託手数料
- 金融収支(信用等)

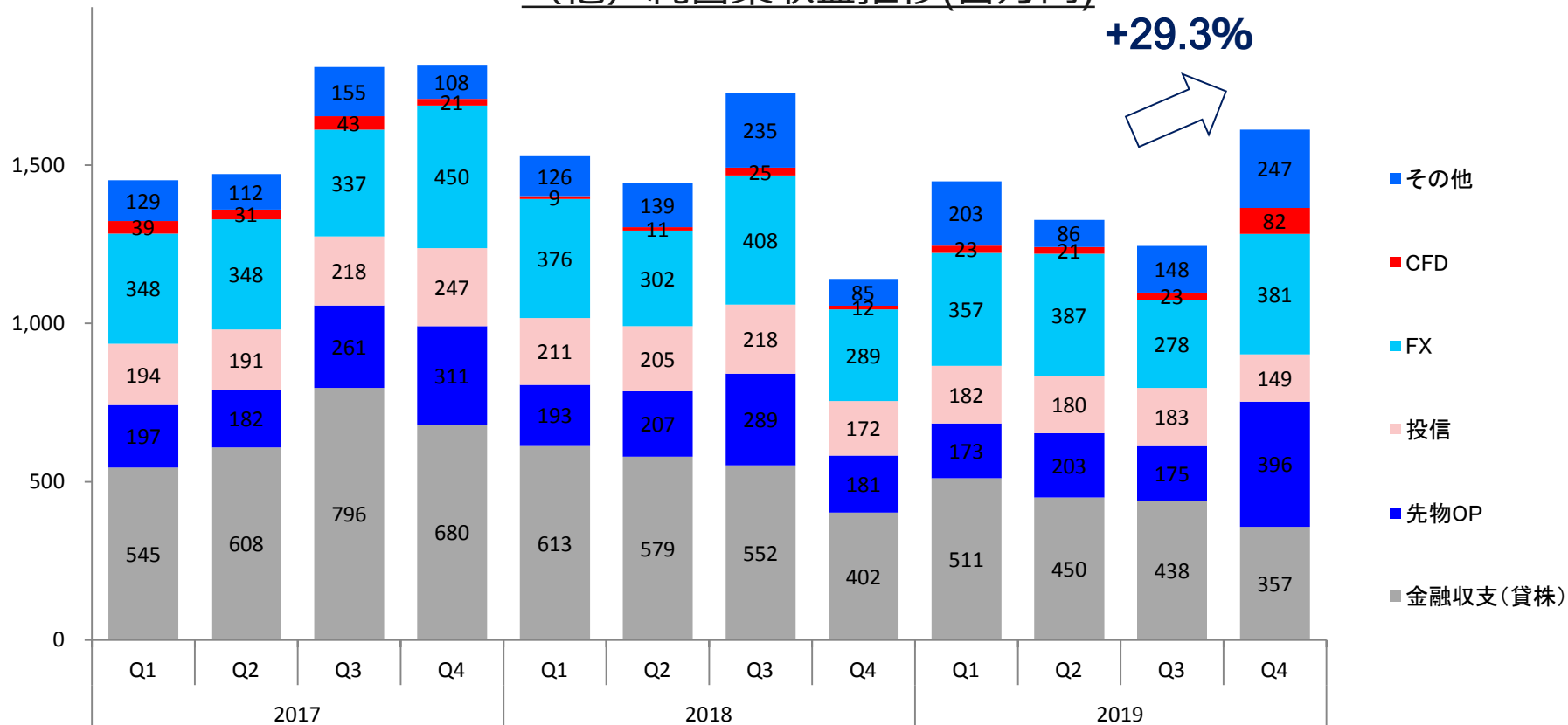


18年度比▲22%

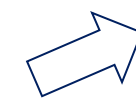
前Q比+0.4%

■ 営業収益はQ4で一気に復調。主な要因として、FX +103百万円、先物OP +221百万円、CFD +59百万円など、足元のボラタイルな市況を受けた、デリバティブ系商品の伸びが大きい。

(他) 純営業収益推移(百万円)



+29.3%

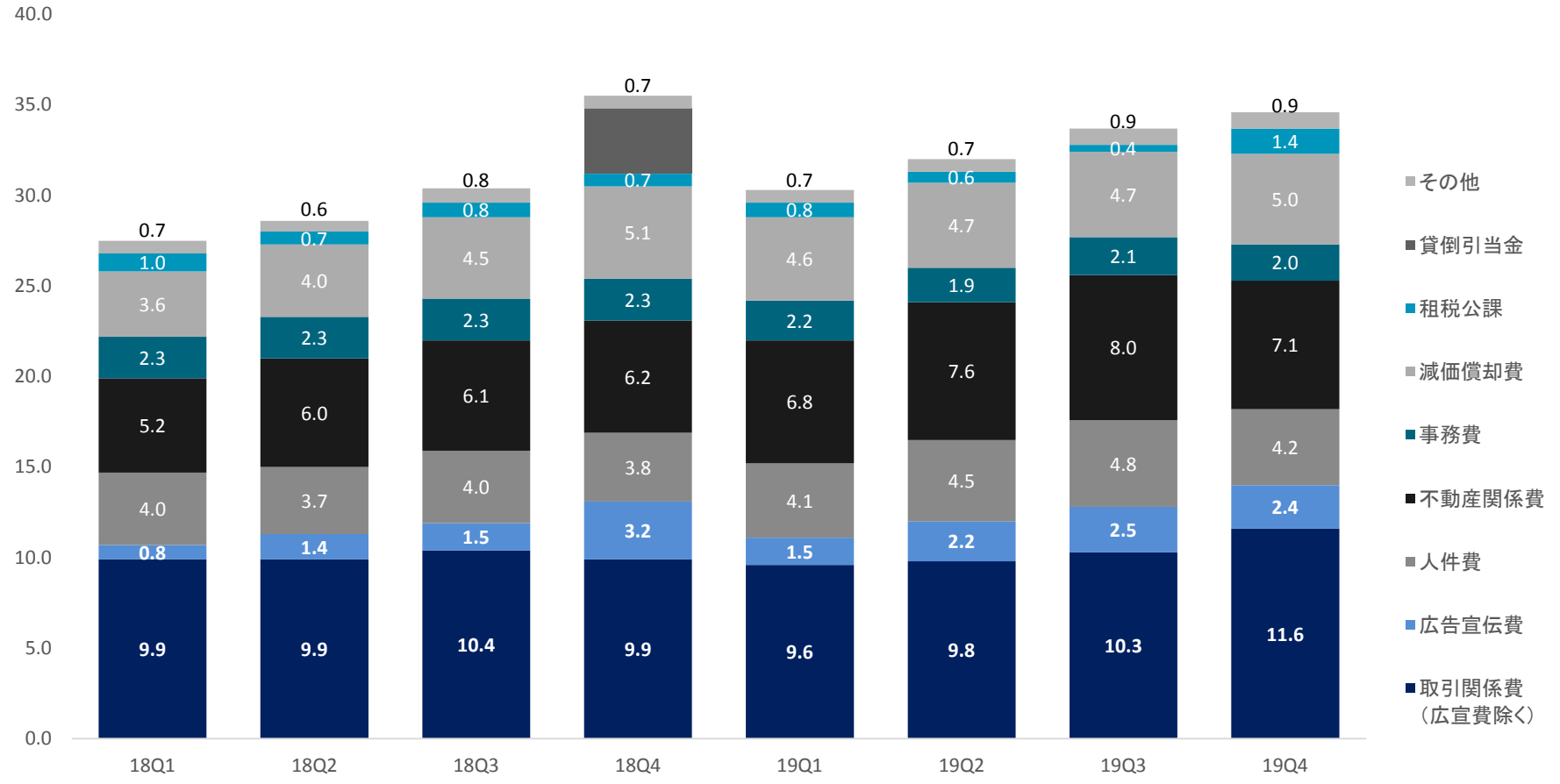


- その他
- CFD
- FX
- 投信
- 先物OP
- 金融収支(貸株)

※「その他」は、TOB関連収益、品目手数料等

■ システム先行投資に伴う経費・減価償却が増加が大きい。通期では、完全な逦増傾向となった販管費全体の抑制が課題。

販管費推移(百万円)



※ 不動産関係費 = 不動産費(支払家賃) + 器具備品費(システム経費)。減価償却費は、システム投資によるものが主

1. 市場環境等
2. 19年度業績
- 3. 19Q4業績**
4. 経営指標
5. 当期の取り組み

株式等 個人市場

- ・ 個人売買代金/日は前Q比+3,493億円、+34.8%
- ・ 信用買残高/週次平残は2.2兆円、前Q比+5.6%
- ・ 個人市場（買いと売りの差額）は1.6兆円の買越

19Q4 業績

- ・ 金融収支・先物OP等収益が寄与し、純営業収益は+9.8%
- ・ 取引増加に伴う費用増加で販管費+2.1%も経常利益増益
- ・ 繰延税金資産約6.4億円取崩しにより、当期純利益は減益

リテール業務

- au本体・auじぶん銀行との協業を深化させた。
- ・ 02月 auじぶん銀行協業、経由の口座開設など所定条件で最大5,000WALLETポイントのプレゼントCPN
 - ・ 02月 新規口座開設→取引で最大50万円プレゼントCPN
 - ・ 02月 auの資産運用→当社開設2,000円プレゼントCPN

BtoBtoC業務

- ・ ノントラディショナル収益比率は直近3年間における過去最高の49%まで伸長

用語定義：

前Q比：前四半期比較、前同比：前年度同四半期累計比較

※全ページにおいて%は四捨五入、第二小数点は切り捨て

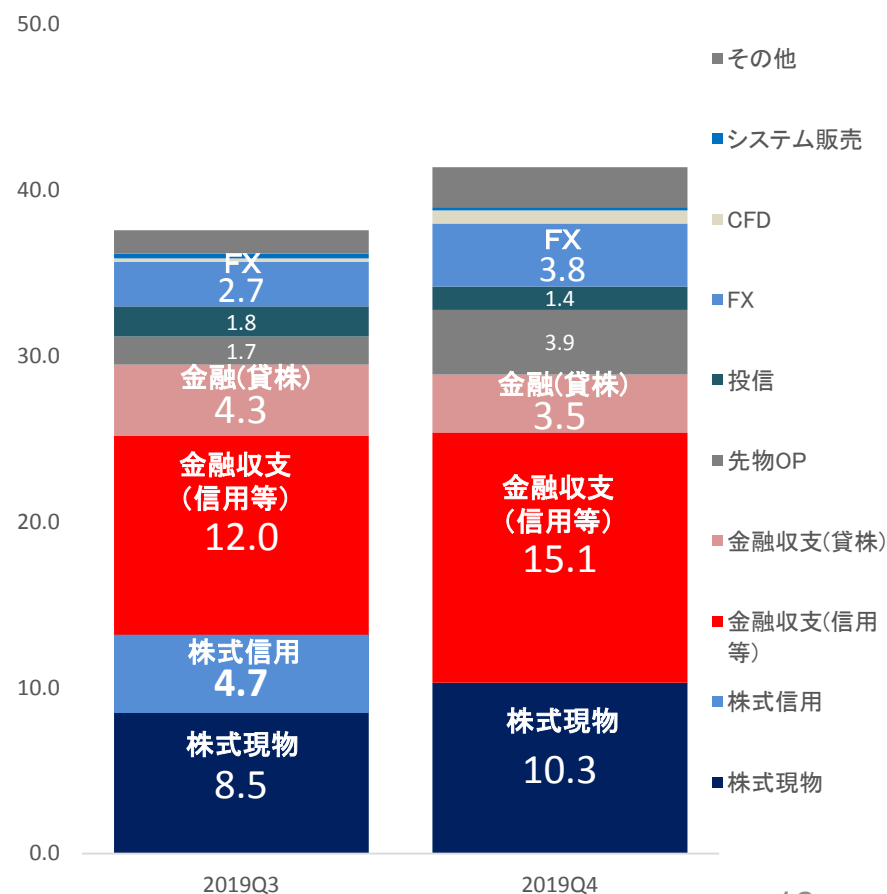
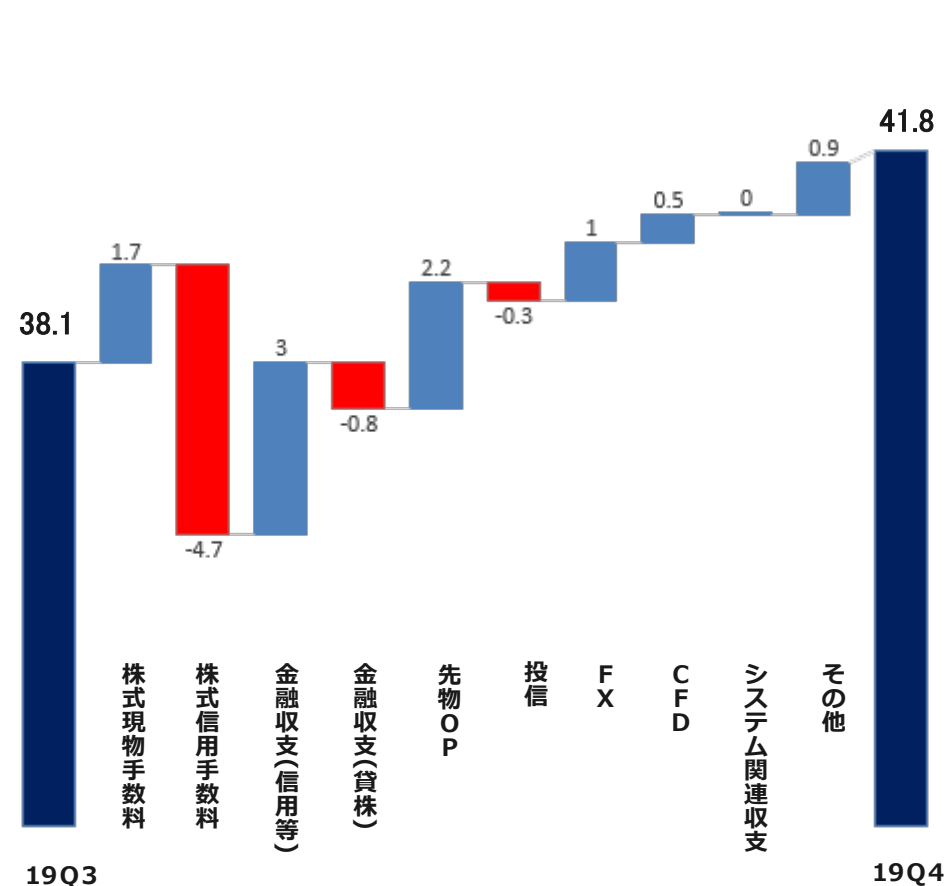
- 信用取引手数料無料化により営業収益減少も、株式以外収益貢献し、純営収は増加。販管費は、システム経費と広告費低減も、取引コスト増加等により+2.1%増加
- 経常利益増益も、繰延税金資産取り崩し約640百万円などにより当期純利益は減益

(億円)	19Q3	19Q4	増減額	増減率
営業収益	49.8	48.2	▲1.5	▲3.1%
純営業収益	38.1	41.8	+3.7	+9.8%
販管費	34.1	34.9	+0.7	+2.1%
営業利益	3.9	6.9	+3.0	+76.4%
経常利益	4.1	6.5	+2.4	+58.2%
当期純利益	2.5	1.6	▲0.8	▲34.1%
市場(億円)				
株式等個人委託売買代金/日 前Q比(前四半期比較)	10,041	13,534	+3,493	+34.8%
信用買残高/週次平残 前Q比(前四半期比較)	21,633	2,2843	+1,210	+5.6%

- 株式市場活発化に伴い、株式現物手数料が+1.7億円増加。一方で、信用手数料無料化により、信用手数料収益は前Q比▲4.7億円減少
- 金融収支(信用等) は前Q比+3.0億円となり、収益に占める比重も増加

純営業収益増減内訳(億円)

純営業収益内訳構成(億円)

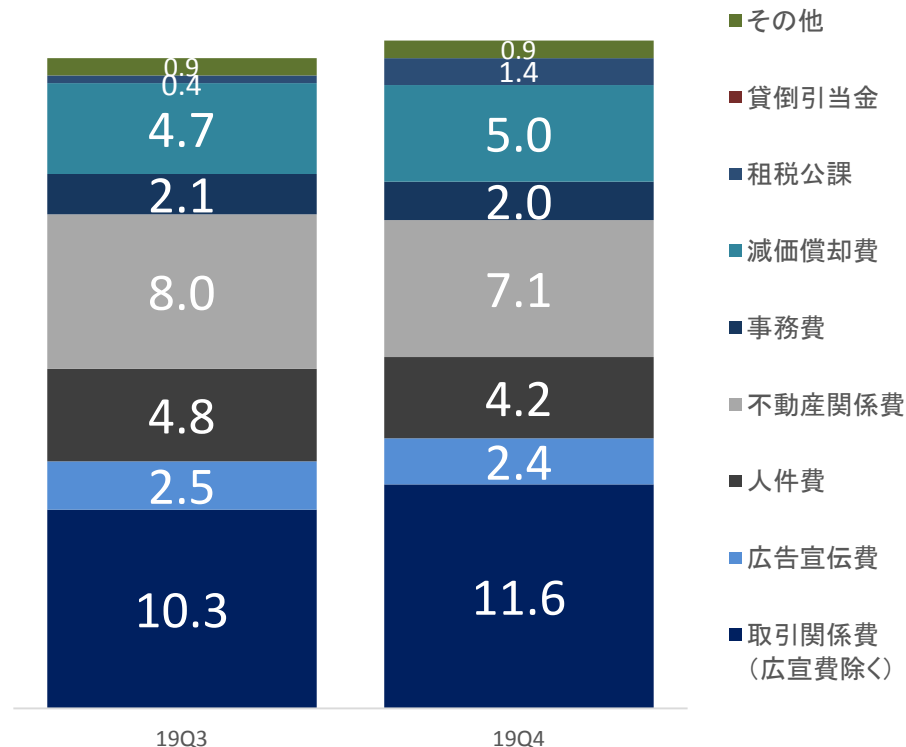
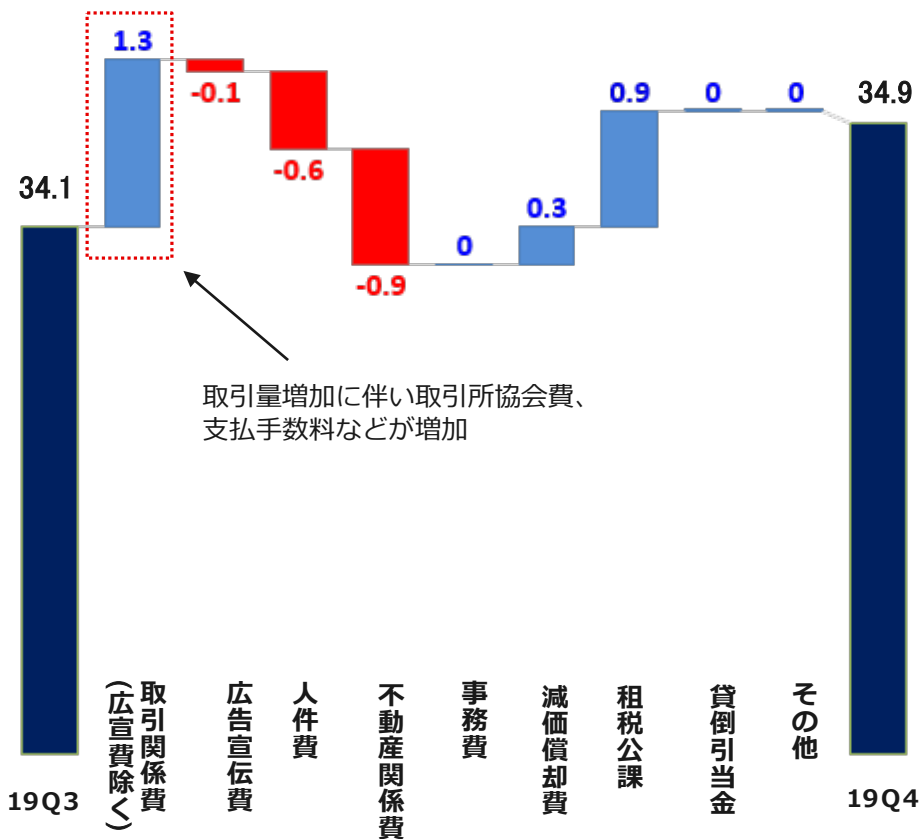


※ 第二小数点以下切捨のため、増減は完全に一致はしない。※ 「金融信用等」は、金融収支のうち貸株による収支を差し引いたもの

- 広告宣伝費抑制、システムのスポット費用減少。一方、減価償却費、取引費用等膨らみ、租税公課を除いた販管費は横ばいとなる。

販管費増減内訳(億円)

販管費内訳構成(億円)



※ 第二小数点以下切捨のため、増減は完全に一致はしない
 ※ 不動産関係費 = 不動産費(支払家賃) + 器具備品費(システム経費)

1. 市場環境等
2. 19年度業績
3. 19Q4業績
- 4. 経営指標**
5. 当期の取り組み

- 19Q4のノントラディショナル収益は49%と過去最高へ。ROE（株主資本利益率）は過去最低レベルへ下落。

経営指数	2017年度				2018年度				2019年度			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
ROE※1	13.5%	12.1%	14.3%	14.5%	14.3%	12.2%	12.3%	9.9%	5.2%	5.6%	2.5%	1.7%
純営業収益経常利益率	25%	36%	48%	40%	44%	36%	38%	6%	22%	15%	11%	16%
BtoBtoC業績比率※2	7.3%	7.6%	7.4%	7.4%	8.3%	8.5%	7.9%	8.4%	8.7%	10.9%	9.7%	9.8%
ノントラディショナル収益比率 ※3	39%	39%	40%	39%	40%	40%	43%	39%	47%	47%	43%	49%
一人当り経常利益（百万円）	9.6	13.9	21.5	18.8	17.4	13.0	14.3	1.7	5.7	3.6	2.5	3.9
自己資本規制比率	443%	396%	421%	372%	399%	377%	419%	369%	424%	376%	391%	364%

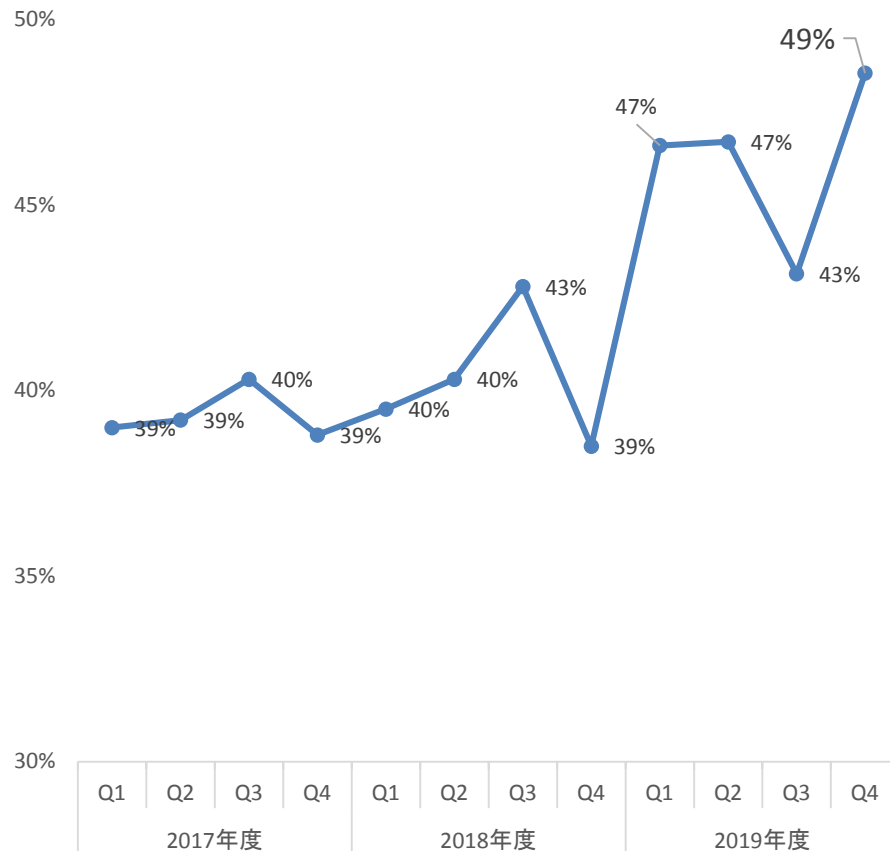
※1 当期純利益累計を年率換算して算出

※2 BtoBtoC収益とは、ノントラディショナル収益の一部であり、API、金融商品仲介、ASP、システム販売収支による収益の合計

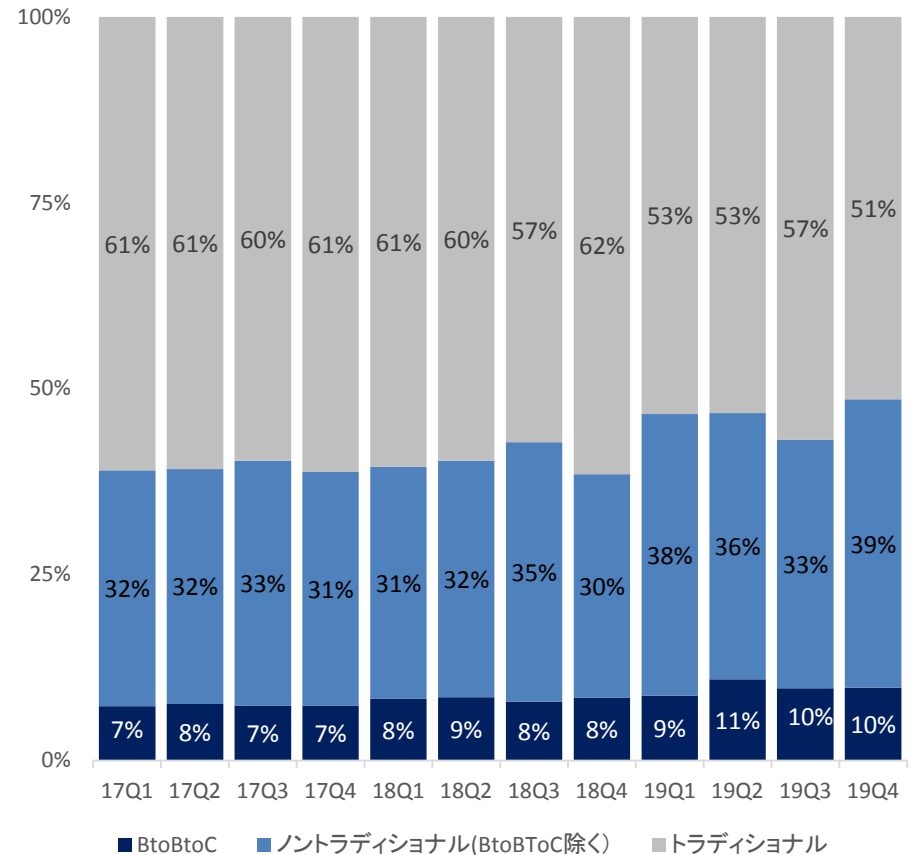
※3 ノントラディショナル収益とは、トラディショナル収益（API、金融商品仲介を除く株式委託手数料及び信用金融収支）以外の収益の合計

■ 19Q4のノントラディショナル収益比率は前Q比+5.4pt増加、急回復により過去最高となった。トラディショナル収益のシェア減少も要考慮。

ノントラディショナル収益比率



収益構成比率内訳(億円)



※ノントラディショナル収益とは、トラディショナル収益（API、金融商品仲介を除く株式委託手数料及び信用金融収支）以外の収益の合計
 ※ BtoBtoC収益とは、ノントラディショナル収益の一部であり、API、金融商品仲介、ASP、システム販売収支による収益の合計

1. 市場環境等
2. 19年度業績
3. 19Q4業績
4. 経営指標
5. 当期の取り組み

- すべてのひとに資産形成をMISSIONとしてauカブコム証券爆誕！
- 『ベストプライス宣言！』にもとづく取組みを実施

MUFG × KDDI 最強布陣

auカブコム証券 爆誕!

すべてのひとに資産形成を。

第一弾	第二弾	第三弾
ベストプライス宣言 シストレFX*主要6通貨ペアのスプレッドを業界最低水準に	ベストプライス宣言 信用取引の取引手数料を撤廃し、無料(0円)に	ベストプライス宣言 子株*積立(プレミアム積立*子株*)の買付手数料を無料(0円)に
COMPLETED	COMPLETED	COMPLETED

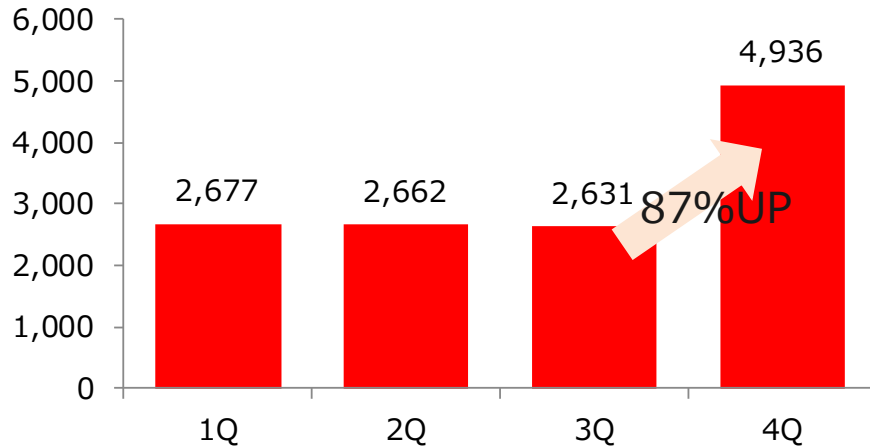
19Q3実施分

第四弾	第五弾	キャンペーン
ベストプライス宣言 投資信託の買付手数料を撤廃し、無料(0円)に	ベストプライス宣言 フリーETF取扱銘柄を拡大し、100銘柄に	【貸株ボーナス銘柄に限り】 貸借料率2倍アップ キャンペーン 期間限定で、貸株ボーナス銘柄の貸借料率が2倍に
COMPLETED	COMPLETED	COMPLETED

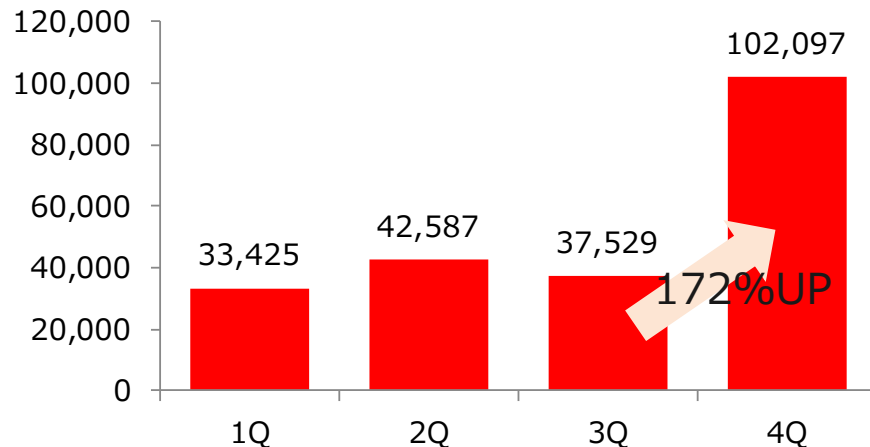
19Q4実施分

- 11/15～シストレFX®主要6通貨ペアのスペードを業界最小水準に
- 前期比で稼働口座は87%up、売買代金は172%up！

■ シストレFX口座稼働数(人)



■ シストレFX売買代金 (億円)

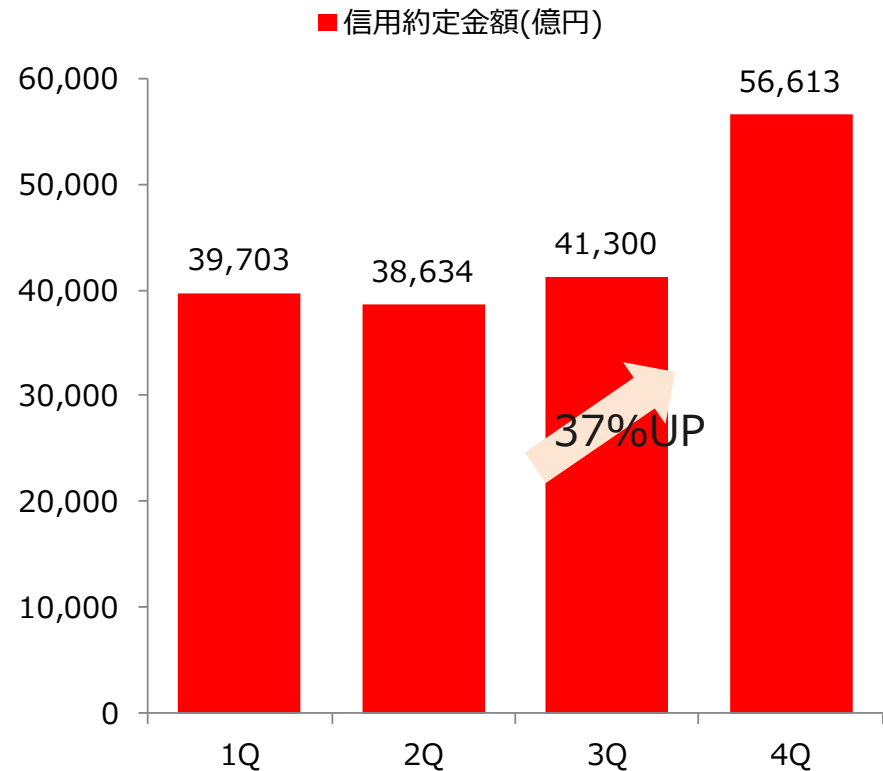
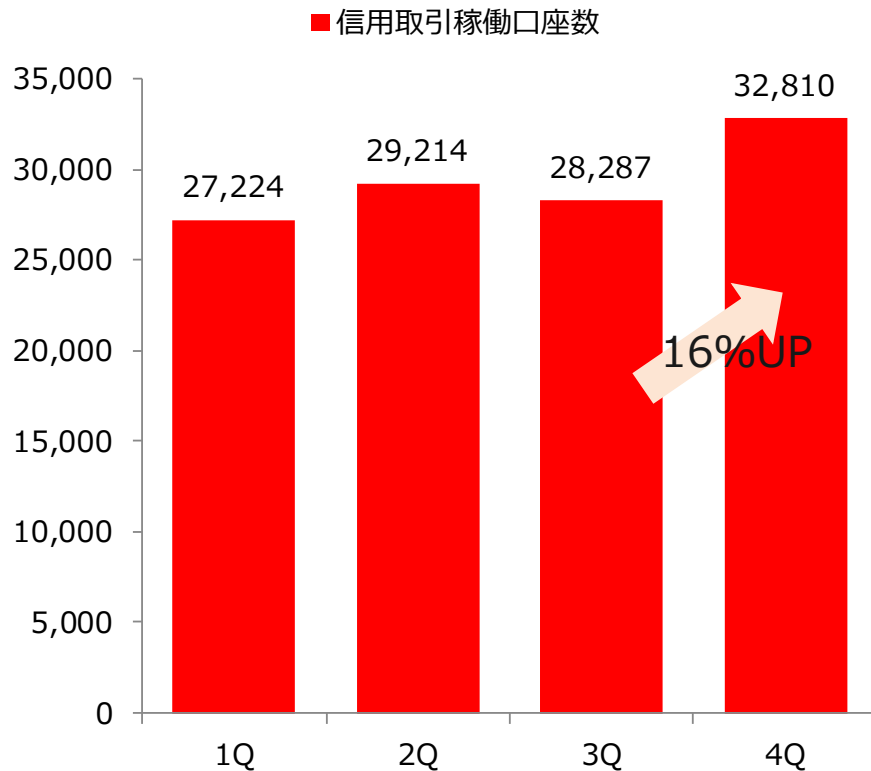


<競合他社スペード比較表>

対象通貨ペア	現行スペード								
	当社	主要ネット証券				その他			
		楽天証券	SBI証券	マネックス証券	松井証券	GMOクリック証券	DMM.com証券	ヒロセ通商	YJFX
USD/JPY (米ドル/円)	0.2銭	0.3銭	0.3銭	0.3銭	1.0~2.0銭	0.2銭	0.2銭	0.3銭	0.2銭
EUR/JPY (ユーロ/円)	0.4銭	0.5銭	1.1銭	0.5銭	2.0~4.0銭	0.5銭	0.5銭	0.5銭	0.5銭
GBP/JPY (英ポンド/円)	0.7銭	1.0銭	1.5銭	1.3銭	6.0銭	1.0銭	1.0銭	1.0銭	1.0銭
AUD/JPY (豪ドル/円)	0.4銭	0.7銭	1.0銭	0.6銭	2.0~4.0銭	0.7銭	0.7銭	0.7銭	0.7銭
EUR/USD (ユーロ/米ドル)	0.2pips	0.4pips	0.8pips	0.4pips	1.0~2.0pips	0.4pips	0.4pips	0.4pips	0.4pips
GBP/USD (英ポンド/米ドル)	0.7pips	1.0pips	1.5pips	1.2pips	6.0pips	1.0pips	1.0pips	0.8pips	1.0pips

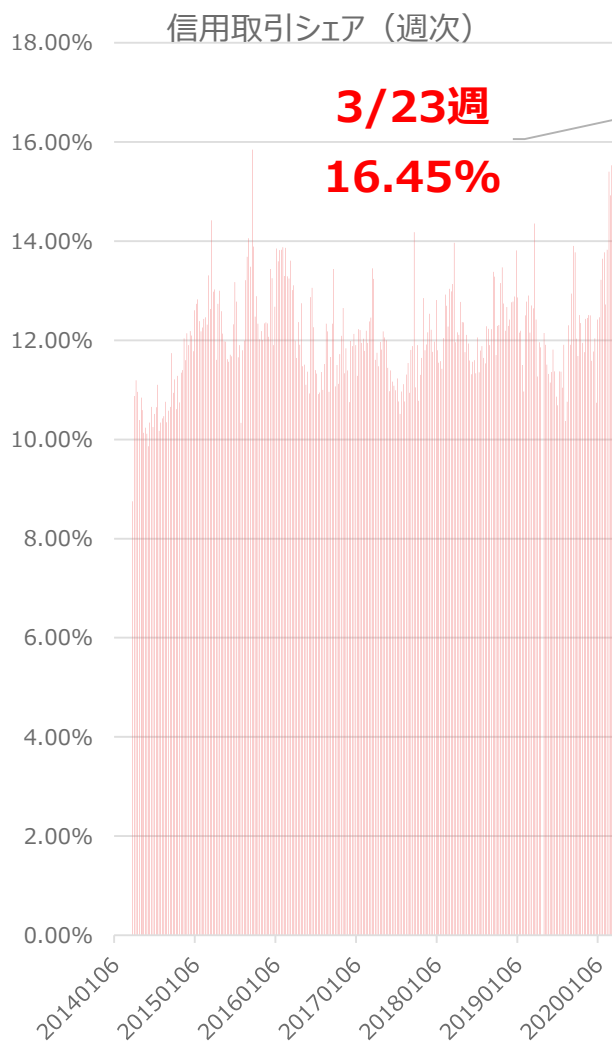
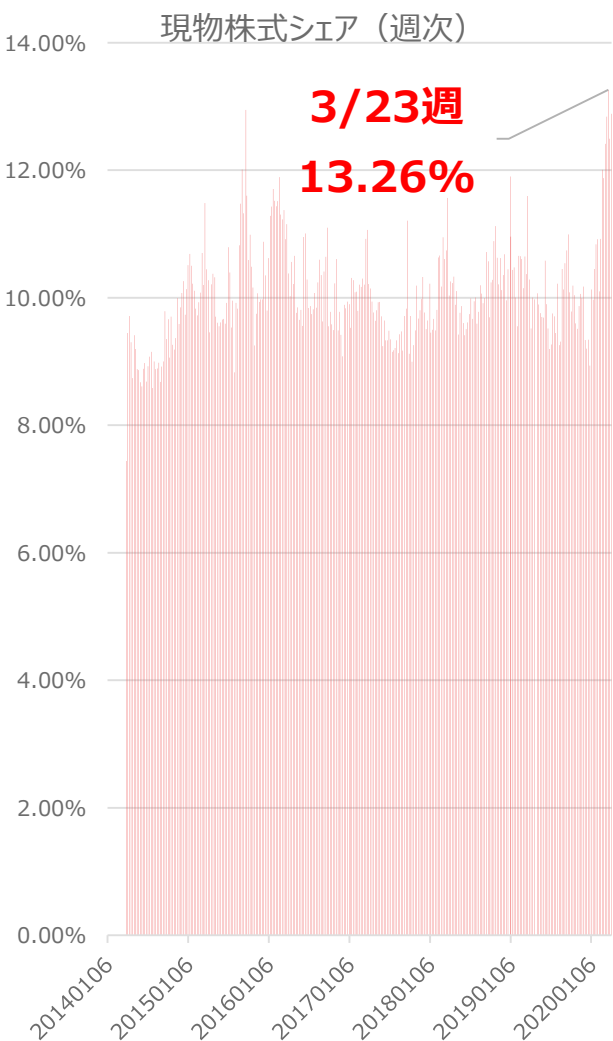
※ 2019年11月5日現在、各社ホームページを参照し当社作成。
 ※ 各社の原則固定スペードを記載
 ※ 複数のFXを取り扱っている場合は最も狭いスペードを記載。

- 12/16～信用取引の取引手数料を「撤廃」
- 前期比で信用稼働口座は16%up、信用約定金額は37%up



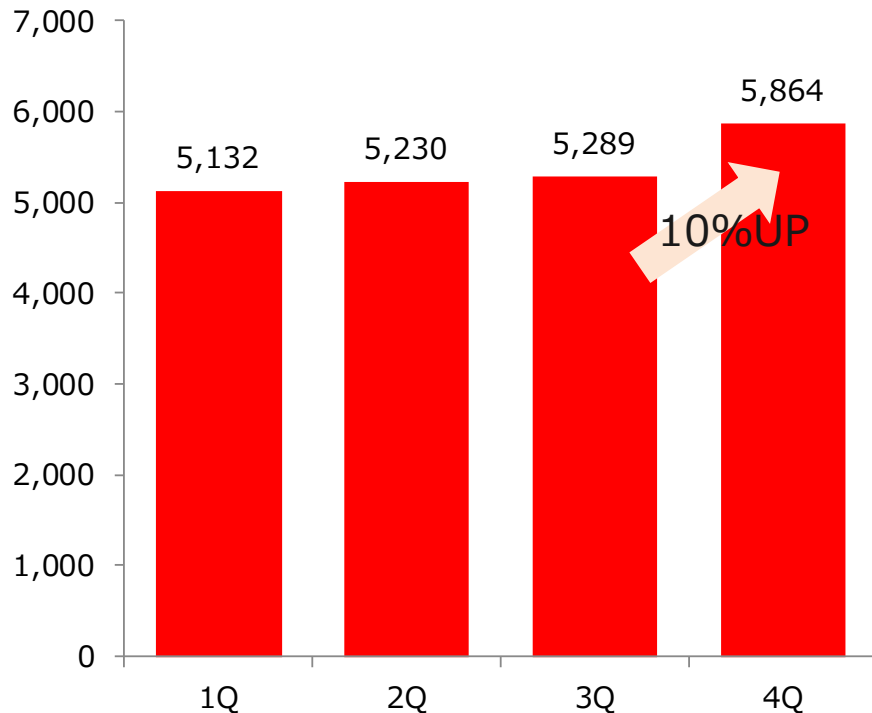
※同時に金利/貸株料引上げ、品受け品渡し事務手数料徴収

■ 3月23日週の出来高週次シェアで「現物株式シェア」と「信用取引シェア」が創業以来最高値を更新！ また信用約定件数も、開業以来最高を今期に2度記録！

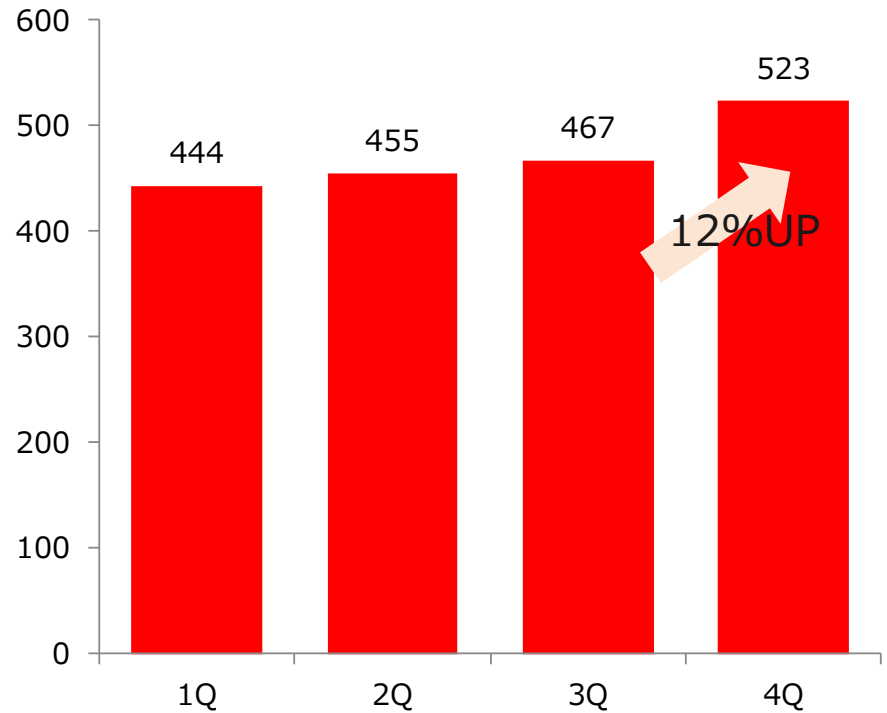


- 12/16～単元未満株「プチ株®」の積立サービスの買付手数料の無料化
- 前期比でプチ株積立稼働口座は10%up、約定金額は12%up

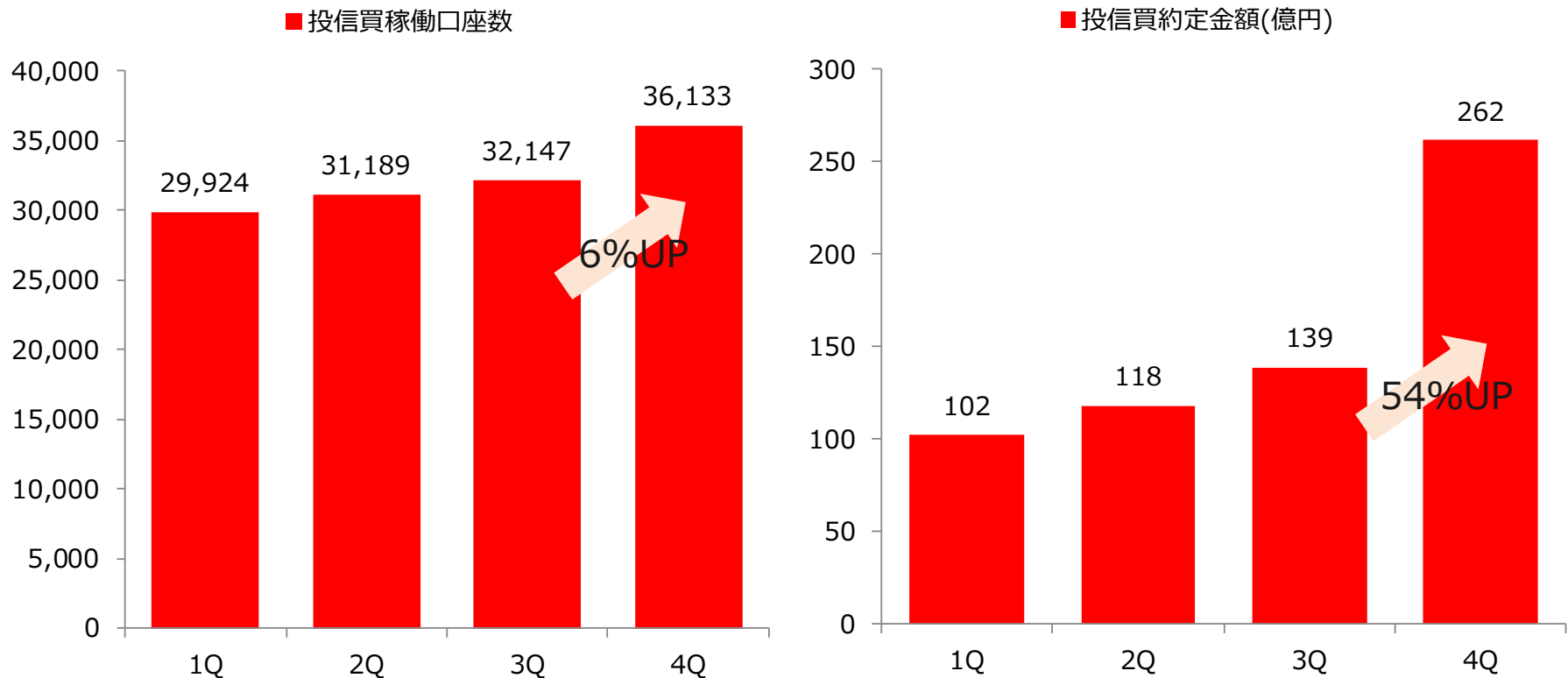
■ プチ株積立稼働口座数



■ プチ株積立約定金額(百万円)

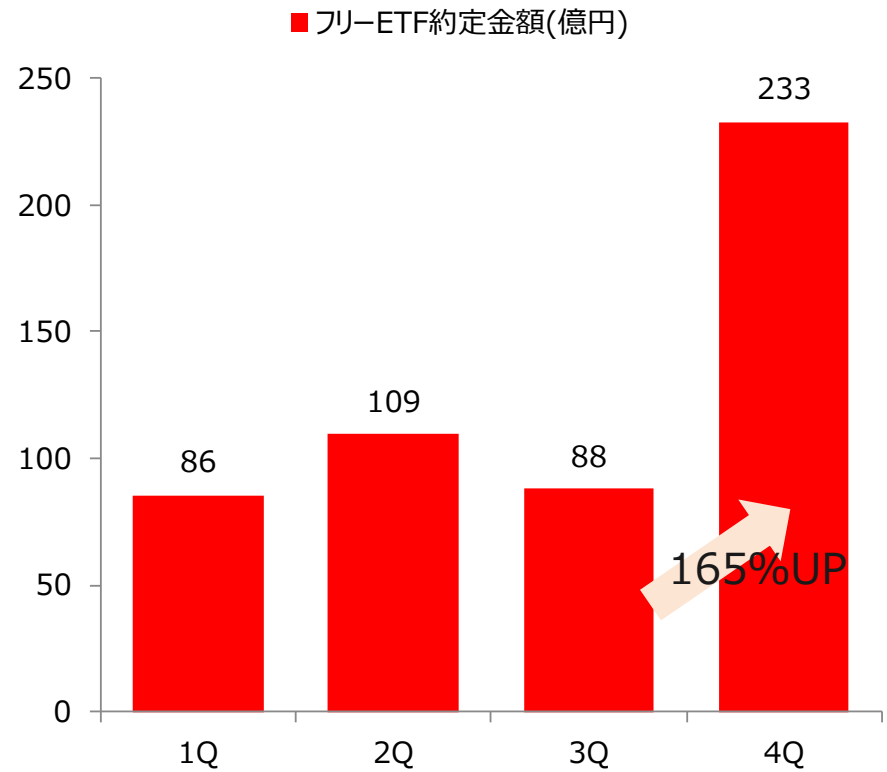
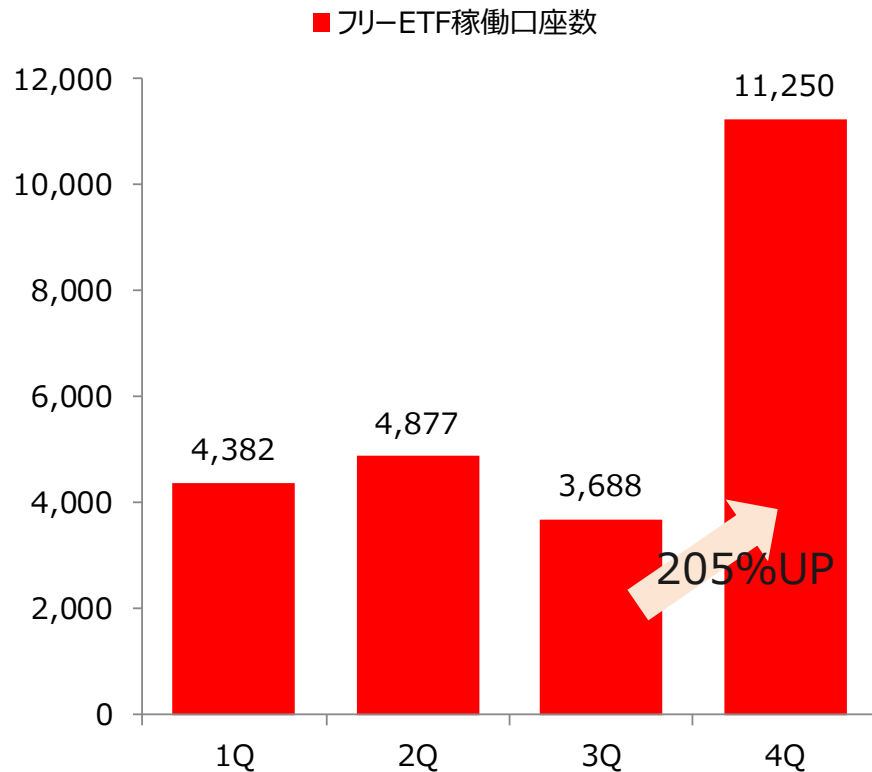


- 1/14～取扱い中のすべての投資信託の「購入時手数料を撤廃」
- 前期比で投信稼働口座は6%up、約定金額は54%up



ベストプライス宣言第5弾：フリーETF

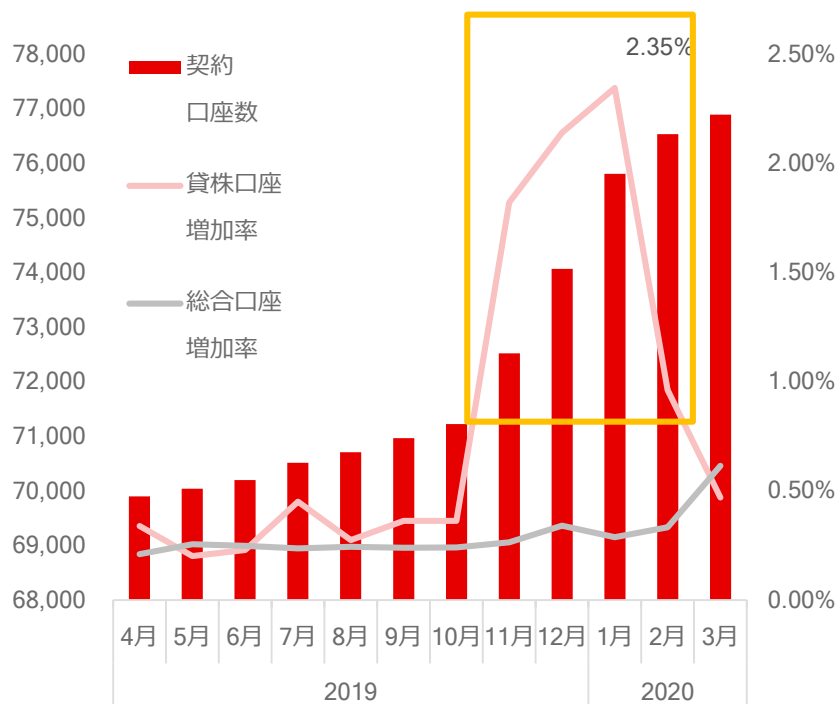
- 12/10～フリーETFの取扱銘柄数を大幅に拡大し100本へ
- 前期比で稼働口座は205%up、約定金額は165%up



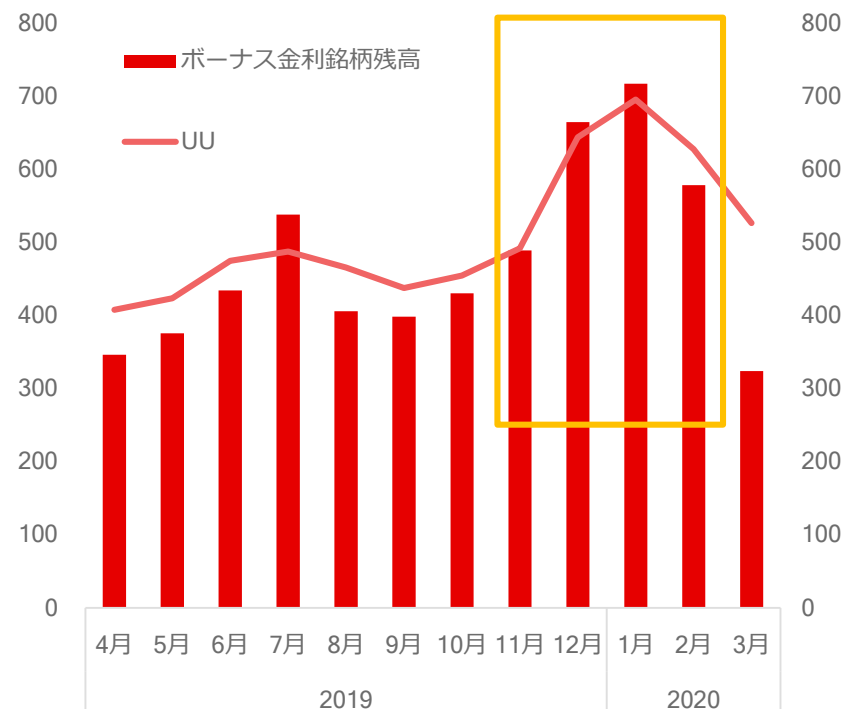
※銘柄数は2020/4時点 30

- 2019年12月1日から2020年1月31日までの2ヶ月間、貸株サービス「ボーナス銘柄の貸株金利を2倍」キャンペーンを実施
- 貸株サービス契約口座数大幅に増加、収益性の高い高金利銘柄残高も上昇
※対象銘柄数200銘柄・通常1%～10%→キャンペーン期間2%～20%

貸株サービス契約口座数/増加率の月次推移



ボーナス金利銘柄の貸株残高 & 保有口座数



- 「auの資産運用」のブランド名称としてauPayアプリを中心に資産形成層を集客
- au (KDDI) 及びauじぶん銀行を皮切りにKDDIグループからの集客を拡大中

■ auPayにおける「auの資産運用」の展開



■ auの資産運用口座開設キャンペーン

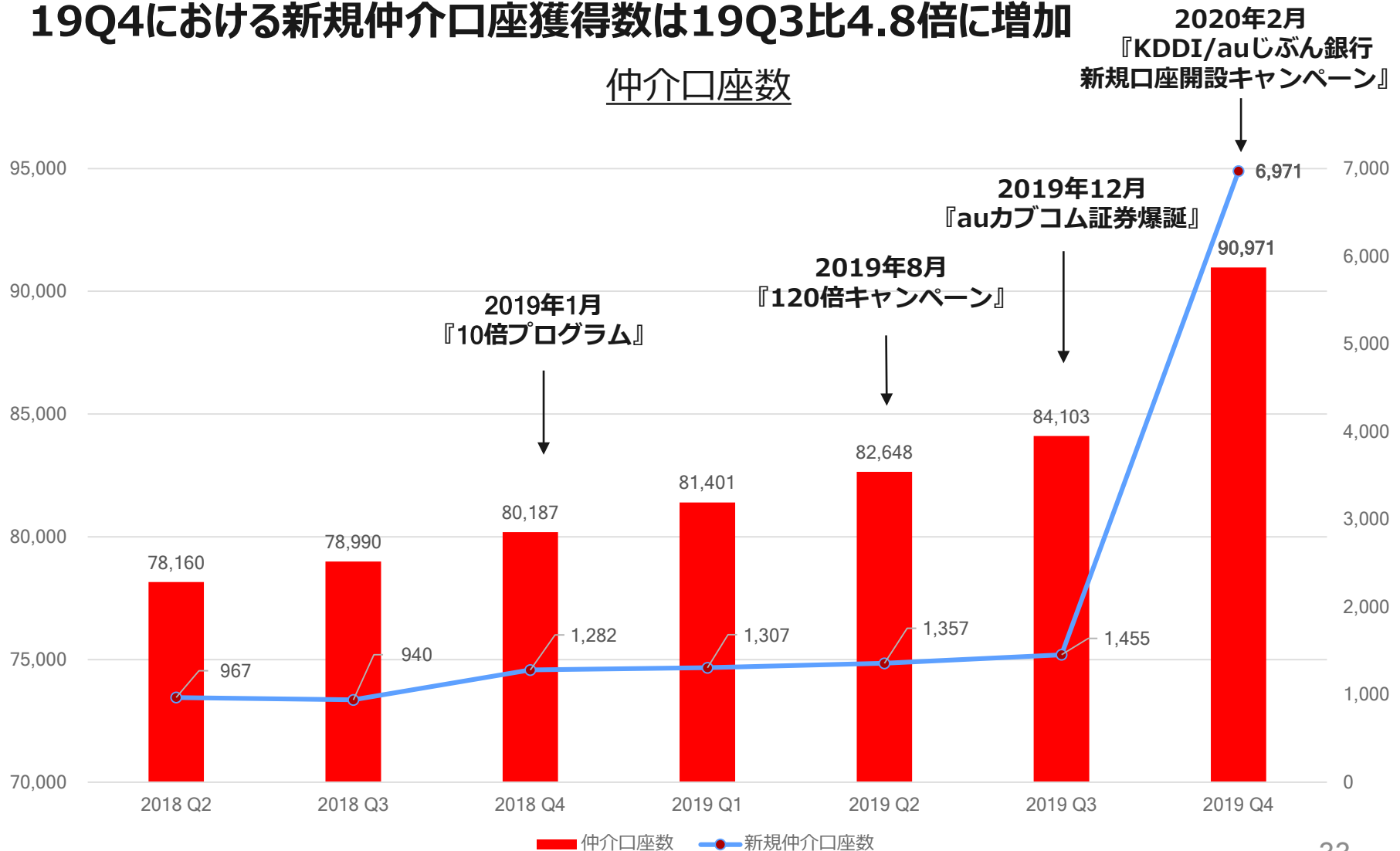


■ auじぶん銀行金融商品仲介口座開設キャンペーン



- 2019/12にKDDI金融商品仲介業を開始し、au協業施策を強化
- 19Q4における新規仲介口座獲得数は19Q3比4.8倍に増加

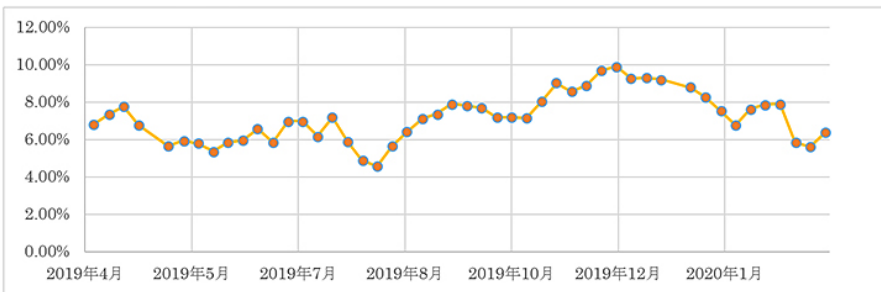
仲介口座数



- 当社お客さまの「信用評価損益率（買残）」の二市場合計との較差が6.38%に
- 信用取引約定件数は創業来最高を記録・日経225先物・OP損益も調整局面で優位に

信用評価損益率（買残）の二市場合計との較差推移

当社お客さまの「信用評価損益率（買残）」は、2020年3月13日（金）時点で、二市場合計を6.38%上回り2013年10月第3週以降、324週間連続で二市場合計を上回り続けています。

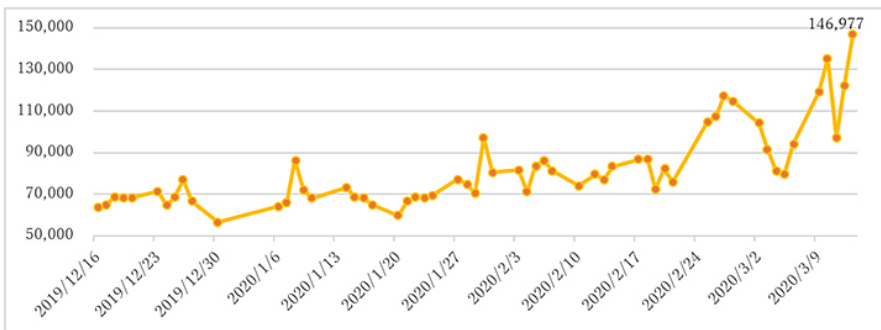


※1 二市場、当社ともに信用評価損益率は右記の式にて算出【信用評価損益率=評価損益+信用建玉残高（買建のみ）】

※2 日本取引所公表数値より当社計算。上記データは一般信用分を含んだデータです。

信用取引の1日あたりの約定件数は過去最高を突破

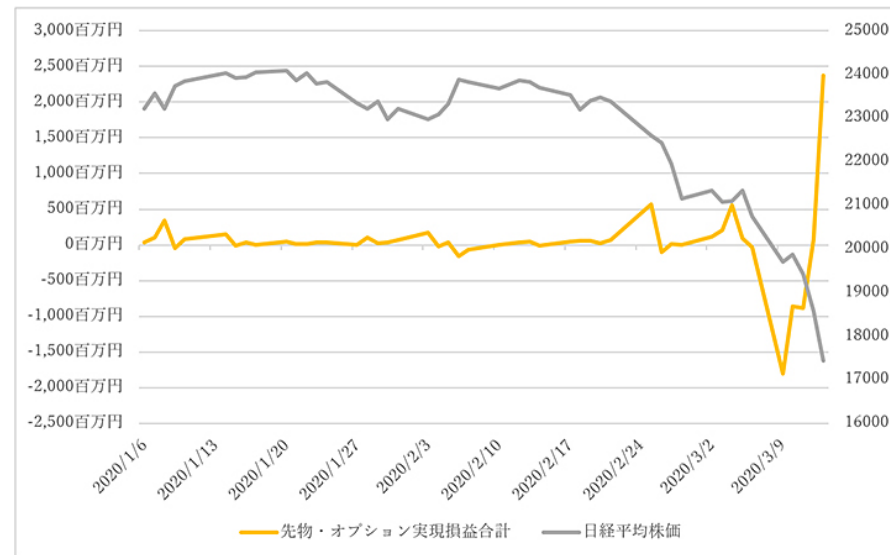
信用取引手数料無料化（2019年12月16日）以降の1日あたりの信用取引約定件数の推移



ヘッジ取引ニーズ拡大により日経225先物・オプション取引のお客さま投資成績も好調

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、今年1月の高値から日経平均株価が27%強の急落となる中、3月限月の最終清算日（SQ）における、日経225先物・オプション取引のお客さまの実現損益が今年最高を記録する等、相対的に良好なお客さま投資成績を維持しております。

左軸：当社お客さまの日経225先物・オプション取引の実現損益合計値の推移
右軸：日経平均株価の推移



■相場変動についてのご注意ください

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、世界経済状況への不安から、株式相場や為替相場が不安定な状況になっております。

また、FX（外国為替証拠金取引）においては、急激な相場変動により、スプレッドが拡大しやすくなっております。詳細は[FX（外国為替証拠金取引）](#)をご覧ください。

なお、先行き不透明な相場のため、どのようなお取引においても余裕をもった資産運用計画や、投資資金でのお取引をお願いいたします。

■お客様サポートセンターへの電話が繋がりにくい状況です

新型コロナウイルスの感染拡大による不安定な相場から、通常よりも数多くのお問い合わせをいただいておりますが、緊急事態宣言を受けて、出社が困難なオペレーターもおり、お電話が非常に繋がりにくくなっております。

大変お手数ですが、メール（cs@kabu.com）でのお問い合わせをご検討ください。

また、[チャットボット](#)、[Q&Aよくあるご質問](#)もご不明な点が解消いただけるかと思っておりますので、ぜひご利用下さい。


■配当受取の為の基準日変更となる場合もあります

新型コロナウイルスの影響により、上場会社が、事業年度終了後に定時株主総会を開催できなくなり、新たに定時株主総会の日を定めた場合、配当金などの権利の基準日が変更されることもあります。その際、本来の事業年度末日に取得していた株式に配当の権利が付与されません。株主優待についても、同様な措置がとられることも考えられます。

詳細は、上場会社のホームページや問い合わせ窓口へご連絡ください。

■リアルセミナーを中止し、youtubeでのセミナー拡充しています

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、セミナー会場に集まっていただく形式のリアルセミナーは当面中止とさせていただきます。

なお、一方でyoutubeでのオンラインセミナーでの更なる充実を行ってまいりますのでチャンネル登録の上、[カブコム公式チャンネル](#)  ご利用ください。

■ プレスリリースやメール、各種お知らせを利用し、新型コロナウイルスによるお客さまの取引への影響や、お取引先さまへのご協力依頼、当社の取組みをご案内 (2/2)

■ 不要不急のお打ち合わせを避ける

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、お取引先さまとの不要不急のお打ち合わせを原則ご遠慮させていただき、業務に必要なお打ち合わせ等はインターネット会議システム（当社ではMicrosoft Teams）を利用しておりますので、どうぞお打ち合わせにご利用ください。

■ auカブコム証券の感染拡大防止への取組み

■ 原則テレワーク（遠隔業務）での業務

auカブコム証券では、かねてから全役職員にiPhoneおよびテレワークにも活用できるノートPCを配布してまいりました。2月より従業員は原則テレワークとしております。また、現在、お客さま対応や書面でのお手続きなど出社必須である従業員を除き、約7割程度がテレワークでの業務を実施しており、出社する際には時差出勤を積極的に活用しております。

■ 「3密対策」の徹底

多数があつまる「密集」、換気の悪い「密閉」、間近での会話「密接」にならないように、常に会社内で「3密」に配慮し、日々の業務を行っています。

■ 消毒・手洗い・うがい・マスク着用

会社内の各所に消毒液を設置し、入出時には消毒を行うとともに、日頃から身の回りの消毒を実施、また、手洗い・うがいの励行、通勤時や外出時にはマスクを着用し、自分への感染を防ぐとともに、自分から他の方々への感染を防ぐ。

■ 不要不急の外出を避ける

当社内での新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、従業員の不要不急の外出を禁止し、業務に必要なお打ち合わせ等はインターネット会議システムを活用しております。また、従業員のプライベートにおいても、平日・休日問わず外出を自粛しております。

- auカブコム証券YouTubeチャンネル登録者数が14,000名突破！！
- 河合セミナー好評により躍進。楽天証券チャネル(1.47万名)との差は約600名
- チャンネルの視聴回数は、auカブコム証券4,751,328回、楽天証券781,888回

auカブコムチャネル出演者

河合達憲



auカブコム証券 チーフストラテジスト

近畿大学大学院・博士前期課程修了。日本で数少ない証券専攻修士号のマスター称号を有する。中堅証券調査部にて調査・情報畑一筋で20数年来、企業調査や投資戦略、投資手法などのストラテジー構築に従事。ファンダメンタルとテクニカルを融合した投資分析を実践し、各種マネー誌や月刊宝島、夕刊フジ等の銘柄推奨コンペティションでの優勝など各賞を多数受賞。毎週火曜夜の「当面のストラテジー」セミナーが大人気を博し、TV・ラジオにも多数のレギュラー出演中。

山田勉



auカブコム証券 マーケットアナリスト

準大手証券にてディーラー、マーケットメイカー、マーケットアナリストとして十数年活躍。2004年5月、カブドットコム証券（auカブコム証券）入社。『ごちカブ』（ラジオNIKKEI）『まーけっとNavi』（日テレNEWS24）『マーケットホットライン』（ストックボイス）などに出演。デフレ脱却と成長経済復帰で「日本を取り戻す」のが悲願。

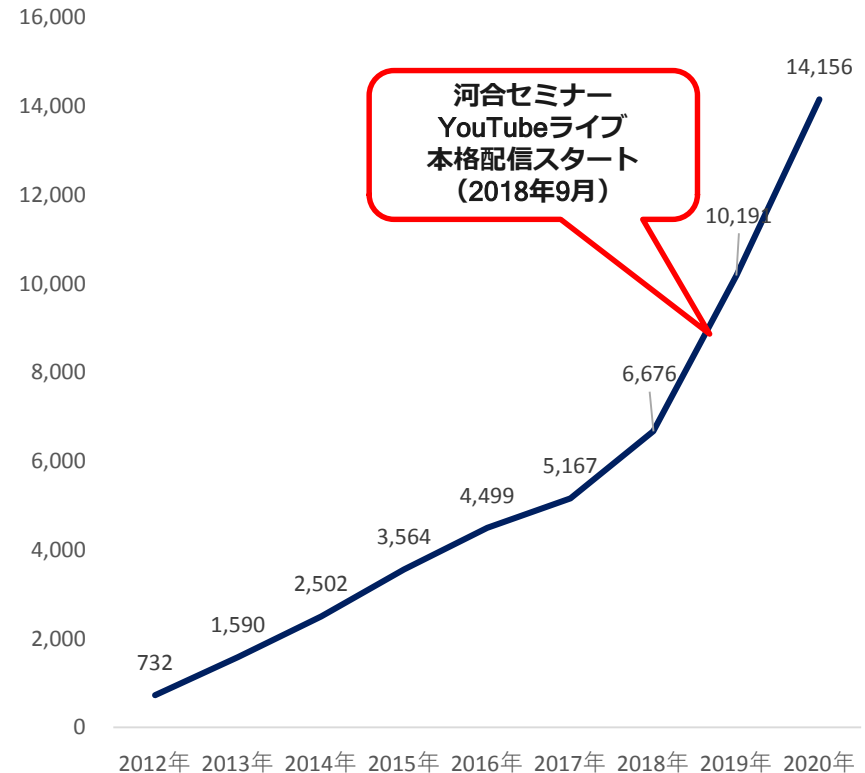
川上雅人



auカブコム証券 ファンドアナリスト

中堅証券会社にて日本株アナリストとして2年半経験。大手運用会社で18年間、投資信託のマーケティング業務に従事。2019年11月、カブドットコム証券（auカブコム証券）に入社し、ファンドアナリストとして投資信託、ETF等の情報提供を担当。投資信託を投資家目線でわかりやすく解説することを目指すとともに、投資信託の情報をもとにした投資アイデアを提供。

チャンネル登録者推移



- ロボットアニメの金字塔である「機動戦士ガンダム」を起用したコラボCMの放映
- 「ジオン占領宣言」と題した当社WEBサイトとのコラボを実施、展開の拡大中

■ ガンダム×auカブコム証券コラボCM①



■ ガンダム×auカブコム証券オウンドメディアコラボ

■ ガンダム×auカブコム証券コラボCM②



- 会社情報・IR情報 <https://kabu.com/company/>
- 決算・財務情報 https://kabu.com/company/disclosure/accounting_line.html
- 月次情報開示口座数・約定情報等の推移 https://kabu.com/company/monthly_disclosure/order/default.html
- サポートセンターレポート <https://kabu.com/support/report/default.html>
- 顧客投資成績 https://kabu.com/company/monthly_disclosure/score/default.html
- システムレポート https://kabu.com/company/monthly_disclosure/system/default.html
- 売買審査状況 https://kabu.com/company/monthly_disclosure/mktsurvey/default.html

■お取引にあたってご注意いただきたい事項

各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。当社ホームページにて取引内容、リスク等の説明内容事項をご覧ください。

※証券投資は、価格変動、金利の変動、為替の変動等により投資元本を割り込む恐れがあります。自動売買を含むすべてのご注文は必ず約定するものではありません。

お取引の際は、目論見書、約款・規程集及び契約締結前交付書面等をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等をよくご理解の上、ご自身のご判断で無理のない資産運用を行ってください。

※投資信託の購入は、基準価額の変動により元本を割り込み損失を被ることがあります。ファンドにより販売手数料とは別に、信託報酬・解約手数料・その他手数料等を要するものがありますが、各ファンド別に要件・料率等が異なりますので表示できません。お取引に際しては、目論見書商品毎 および目論見書補充書面投資信託をよくお読みください。

※信用取引・指数先物取引・指数オプション取引は、保証金または証拠金以上のお取引が可能であるため、保証金または証拠金を超える 大きな損失を被ることがあります。又、取引期限があり取引期限を越えてのお取引はできません。

※外国為替証拠金取引FXは、取引金額がお客さまが預託しなければならない証拠金の額に比べて大きい額となっており、投資額以上の損失が生じる可能性があります。又、外国為替証拠金取引は元本や利益を保証するものではなく、為替変動リスクや金利変動等のリスクを伴います。本取引において当社が提示する売値と買値の間には差額があります。

※外国債券の価格は、金利水準の変動により上下するため、償還前に売却する場合には、元本損失が生じることがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに対する外部評価の変化等により、損失を被ることがあります。外国債券は、為替相場の変動等により、元本損失が生じたり、債券を発行する組織発行体が所属する国や地域、取引がおこなわれる通貨を発行している国や地域の政治・経済・社会情勢に大きな影響を受けたりするおそれがあります。外国債券を購入する場合は、委託手数料はかかりませんが、売買における売付け適用為替レートと買付け適用為替レートには差額があります。上記、適用為替レートは債券の起債通貨によって異なり、実勢レートに基づき当社が決定します。

※お取引に際しては、契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やお取引ルール等をよくご理解の上、ご自身のご判断で無理のない資産運用を行ってください。

※各商品等へのご投資には、商品毎に所定の手数料等が必要です。詳しくは当社の手数料ご案内ページ<https://kabu.com/cost>等をご参照ください。手数料には消費税が含まれています。

※掲載情報の最新情報は当社ホームページ<https://kabu.com/>にてご確認ください。

◆ご投資にかかる手数料等およびリスクについてはこちらをご参照ください。 <https://kabu.com/company/pressrelease/info/escapeclause.html>